
第2期朝来市創生総合戦略

令和2年3月策定

令和5年12月変更

兵庫県朝来市

第1章 人口の目標

I 将来人口を見据えた朝来市の政策形成について

人口減少が深刻化する中で、朝来市では、第2次朝来市総合計画（計画期間：平成26（2014）年度～令和3（2021）年度）（以下「第2次総合計画」という。）において、全国に先駆けて人口減少を市政運営の最重要課題として提示し、人口目標を定め、若者世代を軸とした次世代につながるまちづくりを展開してきました。

また、この第2次総合計画の考え方及び人口目標を踏襲し、平成27（2015）年度に第1期朝来市創生総合戦略（計画期間：平成27（2015）年度～令和元（2019）年度）（以下「第1期市総合戦略」という。）を策定し、人口減少の克服と朝来市創生に取り組んできました。

この第2次総合計画前期基本計画による人口目標は、人口政策として「できる限り社会増減ゼロに近づけていく取組を進める」ことを前提とする中で、社会増減を0とする「封鎖型」により算出した推計人口に基づいたものでした。しかしながら、人口減少がより加速している現状の中で、社会増減を0とするのは現実的ではないことから、第2次総合計画後期基本計画の策定段階において、「15歳—49歳の社会減少率」を10%抑制、「25歳—29歳世代の回帰率」「19歳—44歳世代の女性の出生率」をそれぞれ10%向上、「65歳—90歳世代の生存率」を1%向上させることとして算出した人口に基づき、人口目標を「21世紀中頃の人口を概ね25,000人」を「21世紀中頃の人口を概ね20,000人」に修正しました。この人口目標を踏まえ、朝来市では、人口政策による地域力の向上に向けて、まちづくりを展開してきました。

このように、人口減少を市政運営の最重要課題として提示し、人口政策に取り組んできましたが、令和2年国勢調査結果では概ね人口指標のとおり推移していることから、今までどおり人口政策は継続しながらも、新たな時代を見据え、持続可能なまちづくりに向けて、市民とともに新しい活力と魅力を創造する第3次朝来市総合計画（計画期間：令和4（2022）年度～令和11（2029）年度）（以下「第3次総合計画」という。）を策定し、まちづくりを展開しています。

II 朝来市の人口目標について

朝来市の人口目標は、第3次総合計画において目標とした「令和32（2050）年に20,000人」を維持することとします。

第2章 戦略

I 基本的な考え方

1 朝来市の創生

朝来市では、第2次総合計画に基づき、人口政策を最重要課題として位置付け、人口減少傾向を少しでも和らげるため、朝来市に人が集まり、留まるまちづくりを進めるとともに、第1期市総合戦略の推進を図ってきました。

さらに、第2次総合計画後期基本計画では、できる限り社会減少を抑制する取組を進めながらも、人口が減少していく将来を見据え、今よりも人口が少なくなっても朝来市民が幸せに暮らしていけるために朝来市全体の地域力の維持、向上と効率的な行政運営を目指してまちづくりを進めてきました。

第2次総合計画等の基本的な考え方を踏襲し、朝来市創生を成し遂げるため、第1期市総合戦略の検証を踏まえながら、国が策定した「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第2期国総合戦略」という。）の基本的な考え方や政策5原則等を基本とし、さらに、第3次総合計画や国が新たに策定した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」（以下「第3期国総合戦略」という。）の基本的な考え方を加え、朝来市におけるまち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目標に、「第2期朝来市創生総合戦略」（以下「第2期市総合戦略」という。）を策定します。

2 計画期間

第2期市総合戦略は、令和2（2020）年度を初年度とする今後6か年の戦略として策定します。

■戦略の期間：令和2（2020）年度～令和7（2025）年度

Ⅱ 基本方針

1 基本理念

朝来市の未来を創っていくのは、朝来市に関わる「ひと」です。今の朝来市を支えている「ひと」や、これから朝来市を担っていく「ひと」、そして、将来、朝来市に移り住んだり、朝来市のファンになる「ひと」、これらの「ひと」がシビックプライド（まちへの愛着・誇り・当事者意識に基づく自負心）を持ち、朝来市の持続的な発展を図る必要があります。

「ひと」の創生、「しごと」の創生、「まち」の創生を支えるのは、すべて「ひと」であり、「ひと」が朝来市創生の基盤となります。

一人一人が大切な存在である「ひと」を重視し、誰もが心豊かに生き、働き、暮らせる社会の実現を目指し、「ひと」づくりの視点を朝来市創生の全てに共通する視点に据えます。

“自分らしく生き生きと活躍する「ひと」”をつくり、その「ひと」が“魅力ある多様な「しごと」”をつくり、その「ひと」と「しごと」が、“誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」”をつくり、その「まち」が、「ひと」を呼び込むという好循環の確立を目指し、「対話」と「協働」を大切にしながら朝来市創生に取り組みます。

2 政策5原則

朝来市創生を確実に実現するため、国が定めた政策5原則を踏まえながら、さらに、市民をはじめとする多様な主体との協働、政策間連携及び地域間連携を強化して、施策を展開します。また、取組の加速化・深化を図るために、デジタルの力を活用し施策を展開します。

（1）自立性

朝来市に関わる「ひと」を中心として、その「ひと」の活力を積極的に活用しながら、継続的に朝来市創生に向けた施策を展開します。この施策を一過性のものとせず、構造的な問題に対処し、民間事業者・個人等の自立につなげていきます。

（2）将来性

自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組める施策に重点を置きます。また、今後の社会情勢等を見据えながら施策を展開します。

（3）地域性

朝来市が持つ、特色ある豊かな地域資源を強みとして活用する施策を展開します。

（4）総合性

朝来市に関わる「ひと」を中心に据え、民間企業、金融機関、報道機関等（産官学金労言士）との連携を図りながら、総合的に施策に取り組みます。また、限られた財源や時間内での最大限の成果をあげるために、それぞれが直接、朝来市創生に取り組むことができるような仕組みづくりを進めます。

（５）結果重視

PDCA サイクル¹のもとで具体的な数値目標を設定し、客観的な指標により事業の効果や進捗状況の検証を行います。また、成果の検証結果等を踏まえながら、随時、第２期市総合戦略の見直しを行います。

３ 総合計画との関係

平成 26（2014）年度を初年度とする第２次総合計画は、人口政策を最重要課題として策定した計画です。この計画は、地域の人（朝来市民）も、地域外の人（朝来市ファン）も、朝来市の地域発展の主役であり、計画の対象者とし、これらの対象者を「あなた」に総括し、「あなた」が好きになる（暮らす、訪ねる、楽しむ）まちを将来像としており、「ひと」を基本に据えたものとなっています。また、平成 30（2018）年度を初年度とする第２次総合計画後期基本計画においても、その考え方を踏襲しています。

以上のように、朝来市は「市民が主役」としてまちづくりを進めており、第３次総合計画もその考え方を引き継ぎ、「ひと」を基本に据え、「人と人がつながり 幸せが循環するまち」を将来像とし、市民一人一人のつながりがまちを前進させる新たな動きを育むとともに、市民一人一人が幸せを実感することで、まち全体が幸せであふれるまちの実現を目指しています。

このような内容で策定された最上位計画である総合計画の推進及び朝来市創生の実現という戦略の目的を達成する観点から、第２期市総合戦略は、上記１で掲げた基本理念、上記２で掲げた政策５原則を踏まえ、戦略的かつ一体的に施策を進めます。

４ SDGs の推進との関係

第２期市総合戦略の推進に向けた取組は、SDGs²の推進に大きくつながっています。市民をはじめとする多様な主体の朝来市創生に向けた取組が SDGs の推進に寄与していることを意識しながら、戦略の推進を図ります。

また、朝来市創生に向けて各年齢層（ライフステージ）に沿って事業を展開する視点を入れることで、朝来市創生の取組にあわせて SDGs の推進においても持続可能な取組につなげていきます。

¹ PDCA サイクル：Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の４つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。

² SDGs（エスディージーズ）：SDGs は、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、持続可能な開発のための 17 のグローバル目標と 169 のターゲット（達成基準）からなる国連の開発目標。2015 年 9 月の国連サミットで採択され、国連に加盟している 193 の国・地域が 2030 年を期限に目標の達成を目指す。

Ⅲ 今後の施策の方向

1 政策の基本目標

(1) 成果（アウトカム）を重視した目標設定

第2期国総合戦略では、4つの基本目標と2つの横断的な目標を明確に設定し、それに基づき適切な施策を内容とする政策パッケージを提示するとともに、政策の進捗状況について重要業績評価指標（KPI）で検証し、改善する仕組みであるPDCAサイクルが確立されています。また、第3期国総合戦略では、こうした流れをデジタルの力を活用して加速化・深化させていくこととしています。

こうした観点から、第2期市総合戦略における政策の基本目標については、朝来市の人口目標を踏まえ、目標年次である令和7（2025）年度において、朝来市として実現すべき成果（アウトカム）を重視した数値目標を設定します。

<第2期国総合戦略の目標>

■ 基本目標

- ① 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする。
- ② 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる。
- ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる。
- ④ ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる。

■ 横断的な目標

- ① 多様な人材の活躍を推進する。
- ② 新しい時代の流れを力にする。

<第3期国総合戦略における施策の方向>

地方の経済・社会に密接に関係する様々な分野においてデジタルの力を活用し、社会課題解決や魅力向上を図る重要な要素。

- ① 地方に仕事をつくる
- ② 人の流れをつくる
- ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ 魅力的な地域をつくる

<朝来市の人口目標>

朝来市の人口目標は、「令和32（2050）年に20,000人」を維持することとします。

(2) 基本目標の設定

朝来市創生に向けて3つの基本目標を設定します。

■基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

基本的な方向

自分らしく生き生きと活躍する人（ASAGOiNG な人）を育むことにより、移住者や関係人口等の新たな人の流れや新たなまちの動きにつなげます。

◆ASAGOiNG な人³を育む

- 地域や学校などで人と人、人と地域、人と仕事などが、対話や体験などを通して互いにつながる場をつくることで、子どもから大人まで市民一人一人の主体性や、前向きに歩いていけるための心の土台である自己肯定感を育みます。
- ASAGOiNG な市民一人一人の多様な「やってみよう」を尊重し応援する取組を通して、誰もが自分らしく生き生きと活躍しながらその延長にまちづくりに参画する機会を創出し、まちへの愛着・誇りだけでなく自分自身がまちを構成する一員であるというシビックプライドを醸成します。
- 地域づくりの担い手などの地域づくり人材、地域内外の人と人・人と地域・人と仕事などをつなげるコーディネーター人材、新たな多様な取組を育むプロデューサー人材、地域経営の視点を持ち地域づくりを進めるマネジメント人材などを育み、「ひとづくり」「しごとづくり」「まちづくり」の多様な活動の促進につなげます。

◆ASAGOiNG な仲間づくり

- ASAGOiNG な人に魅せられ、新たな人の流れをつくる移住・定住の促進や、朝来市に住んでいなくても市内の多様な「やってみよう」の取組を応援する関係人口⁴を創出・拡大するなど、ASAGOiNG な仲間を増やします。
- 多様な主体と連携し、男女の出会いの機会の創出を図ります。
- 移住者や在住外国人などがまちをつくる一員として安心して自分らしく活躍できるように、移住前だけでなく移住後もきめ細かに、地域での受入れ体制の充実を図ります。

³ ASAGOiNG な人：自分らしく自分のやりたいことを実現しながら、その延長にまちで生き生きとしている人のこと。

⁴ 関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。

◆一人一人の行動につなげる情報発信

- 広報媒体や人と人とのコミュニケーションを通じて、一人一人の行動につなげる多様な情報発信を推進します。また、ウェブサイト・広報紙・パンフレット・CATV・SNS など各年齢層に応じた手法を活用することで、効果的な情報発信を図ります。

■基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

基本的な方向

各年齢層に応じてキャリア教育の推進や市内の仕事の魅力ややりがいなどを伝えることにより、一人一人の希望に応じた多様な働き方や経済活動の実現につなげ、朝来市の経済活性化を推進します。

◆内発的な経済成長

- 小学生・中学生・高校生・大学生など各段階に応じて、生き方や多様な仕事・働き方を知ったり魅力に触れたりする機会をつくるなど、情報発信やキャリア教育の充実を進め、雇用人材の確保を図ります。
- 市内企業の後継者育成・設備拡大・新分野への進出等の企業経営支援や、市内企業の規模拡張・企業誘致の受け皿の整備検討などのほか、自分がやりたいことを仕事にする起業など、あさご元気産業創生センターを基盤に多様なチャレンジを応援し、市内企業等の稼ぐ力の向上を図ります。
- 誰もが生き生きと安心して働くことができる環境整備や、副業（複業）など多様な働き方ができる仕組みづくりなど、一人一人の希望に応じたやりがいのある経済活動の実現につなげます。

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

- 地域の自然・農業などと連携した体験型観光など朝来市の強みを生かした観光資源の発掘や魅力の発信により、観光誘客を推進します。
- 周遊型観光⁵・滞在型観光⁶の推進や観光人材の育成による受入れ体制の整備などにより、市内観光消費の拡大を図ります。
- 訪日外国人旅行者を誘客するため、多言語対応やキャッシュレス⁷化など訪日外国人旅行者の受入れ体制づくりなどに取り組み、インバウンド観光⁸の推進を図ります。

⁵ 周遊型観光：複数の観光地を周遊しながら楽しむ旅行形態のこと。

⁶ 滞在型観光：滞在地点を拠点として周辺の観光を楽しむ旅行形態のこと。

⁷ キャッシュレス：クレジットカードや電子マネー、口座振替を利用して、紙幣・硬貨といった現金を使わずに支払い・受け取りを行う決済方法のこと。

⁸ インバウンド観光：外国人が訪れてくる観光のこと。

◆儲ける農林畜産業への転換

- 農林畜産業の魅力を発信するなどにより、認定農業者や新規就農者、法人、グループなど農林畜産業を生業とする担い手を確保・育成するとともに、ワークシェアなど多様な人が多様な関わり方ができる仕組みづくりなど農林畜産業の担い手確保・育成を推進します。
- 農産物の出荷システム構築等による販路拡大や、加工・ブランド化による高付加価値化などにより、儲ける農業への転換を図ります。
- AI 技術の導入やドローンの活用など新技術の導入により、生産量の拡大や作業の負担軽減・低コスト化を図るなど、新たな農林畜産業のあり方を模索します。
- 森林が持つ公益的機能の増進や林業の成長産業化の推進を図ります。

■基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

基本的な方向

地域コミュニティの中で誰もが居場所と役割を持ち、心豊かに安心して暮らせるまちづくりを、多様な主体による対話の場を持ちながら推進します。

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

- 区や地域自治協議会など地域コミュニティを基盤にし、制度の縦割りを超え、誰もが居場所と役割を持ち生き生きと活躍できるまちづくりを推進します。
- 地域協働の基盤となる地域自治協議会の役割や意義を再確認するとともに、地域の多様な主体による対話の場を持ちながら、地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりを推進します。

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

- 誰もが住みなれた地域で自分らしく暮らすことができるように、一人一人が地域とつながる地域共生社会⁹の実現を推進します。
- 在住外国人を含め多様な人が安心して暮らすことができるように、情報発信や教育の充実など多文化共生¹⁰のまちづくりを推進します。
- 誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができるように、多様な主体による疾病・介護予防や健康増進等に向けた健幸づくり¹¹を推進します。

⁹ 地域共生社会：制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えつながることで、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指すこと。

¹⁰ 多文化共生：国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

¹¹ 健幸づくり：市民が、単に「病気にならないための取組」ではなく、また、病気や障害の有無にかかわらず、自らの心身の健康に関心を持ち「自分の健幸は自分でづくり・守る」という意識で、個人の状況に応じて自主的に取り組むとともに、一人一人が生きがいを感じ幸せに暮らすことができるよう取り組むこと。

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

- 地域自治協議会相互や大学・企業等の多様な主体との連携・協働、広域での地域間連携・政策間連携などを強化し、事業の効果を高めるとともに効率的な事業推進につなげます。
- 多様な主体が連携・協働し、新たな交通手段の導入も検討しながら持続可能な地域公共交通の実現を目指し、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進します。
- 市民の暮らしや活動を支える公共施設の適正配置を推進し、市民の多様な活動や生き生きとした暮らしの実現を目指します。
- 産業、観光、歴史・文化、教育などと連携しながら、地域特有の生物多様性¹²の保全と持続可能な利用を総合的かつ計画的に推進します。

¹² 生物多様性：いろいろな生物が存在している様子。生態系の多様性、種における多様性、遺伝子の多様性など、各々の段階でさまざまな生命が豊かに存在すること。

2 推進体制

政策5原則に基づき、まち・ひと・しごとが一体となった創生を図っていくには、自立につながるよう自ら考え、責任を持って第2期市総合戦略を推進することが必要です。そのために、各地域経済・社会の実態に関する分析を行い、中長期的な視野で見直しを図っていくためのPDCAサイクルを確立します。

また、第2期市総合戦略の推進に当たっては、具体的なアクションプランに基づいて実行するとともに、アクションプランの推進に当たっては、朝来市ならではの強みを生かすとともに、重なり合う課題に対応し、統合的な視点を持って、総合的に事業を展開することで、事業効果を高め、効率的に事業を進めるなど斬新な発想のもと、先駆的な取組を進めます。さらに、中長期的な視点を持ち、目標の達成のために各年齢層（ライフステージ）に沿った事業を展開することで、計画期間だけではなく、まちに根付いた持続可能な取組につなげます。

- (1) 第2期市総合戦略の推進に当たっては、国から提供される各種データを活用し、産業や人口等の現状や将来の動向に関し必要なデータ分析を行い、地域の強み・弱みなど特性に即した地域課題等を踏まえながら、必要に応じて戦略を見直します。
- (2) 第2期市総合戦略に関する意見提言、施策検討への意見提言を行うことを目的として、産官学労言士や、デジタル関連の施策を実効的なものとするためにデジタル分野に精通する有識者に加え、市民代表から構成される朝来市創生会議を設置し、総合戦略推進組織として、施策の効果検証等を行います。
- (3) 第2期市総合戦略の推進に当たっては、第3次総合計画のまちづくりを進めていくうえで大切な考え方「市民一人一人が主役」「人と人をつなぐ対話」「未来へのまなざし」のもと、幅広い年齢層の市民との対話の場を持ちながら、市民をはじめ多様な主体と協働しながら取り組みます。
- (4) 第2期市総合戦略の推進に当たっては、持続可能な開発目標 SDGs の理念（「誰一人取り残さない」社会の実現）を踏まえ、SDGs を原動力として取り組みます。
- (5) 市役所内では、市長を本部長として第2期市総合戦略の推進及び庁内調整を行うことを目的とした朝来市創生本部、第2期市総合戦略の推進に関する調査研究等を行う職員プロジェクトチームをそれぞれ設置し、朝来市創生会議と連携しながら、第2期市総合戦略の推進に取り組みます。また、デジタルの力を活用した社会課題解決・魅力向上の取組の加速化・深化を図るために、朝来市 DX 推進本部と連携しながら取り組みます。
- (6) 第2期市総合戦略の推進に当たっては、国の交付金及び地方創生人材支援制度なども含め、多様に用意された国の支援制度を積極的に活用します。
- (7) 朝来市が位置する地理的な優位性に鑑み、但馬地域や中播磨地域及び、近隣自治体である丹波市、京都府福知山市などを含むエリアを生活圏域として位置付け、朝来市を生活拠点とした定住促進施策や広域連携を積極的に推進します。

第3章 アクションプラン

基本目標 1 自分らしく生き生きと

活躍する「ひと」づくり

1 基本的な方向

自分らしく生き生きと活躍する人（ASAGOiNG 人）を育むことにより、移住者や関係人口等の新たな人の流れや新たなまちの動きにつなげます。

2 重要評価指標（KPI）

指標	現状値 (R1)	目標値 (R7)
朝来市が好きだと思ふ生徒の割合（中学3年生アンケート調査）	87.0% (R1 アンケート調査)	90.0%
住んでいる地域に愛着や誇りを持つ市民の割合（市民アンケート調査）	62.8% (R1 アンケート調査)	65.8%
自らの知識や経験を地域社会活動に活かしている市民の割合（市民アンケート調査）	28.7% (R1 アンケート調査)	27.8%
朝来市に住み続けたいと思ふ市民の割合（市民アンケート調査）	65.4% (R1 アンケート調査)	70.0%
家族や友だちに朝来市への移住を勧めたいと思ふ市民の割合（市民アンケート調査）	37.9% (R1 アンケート調査)	46.5%
朝来市の移住支援制度を利用して転入した人数	566 人 (H26～H30 年度)	1,360 人（累計）
居住年数 10 年未満の市民で朝来市が住みやすいと思っている市民の割合（市民アンケート調査）	62.8% (R1 アンケート調査)	70.0%

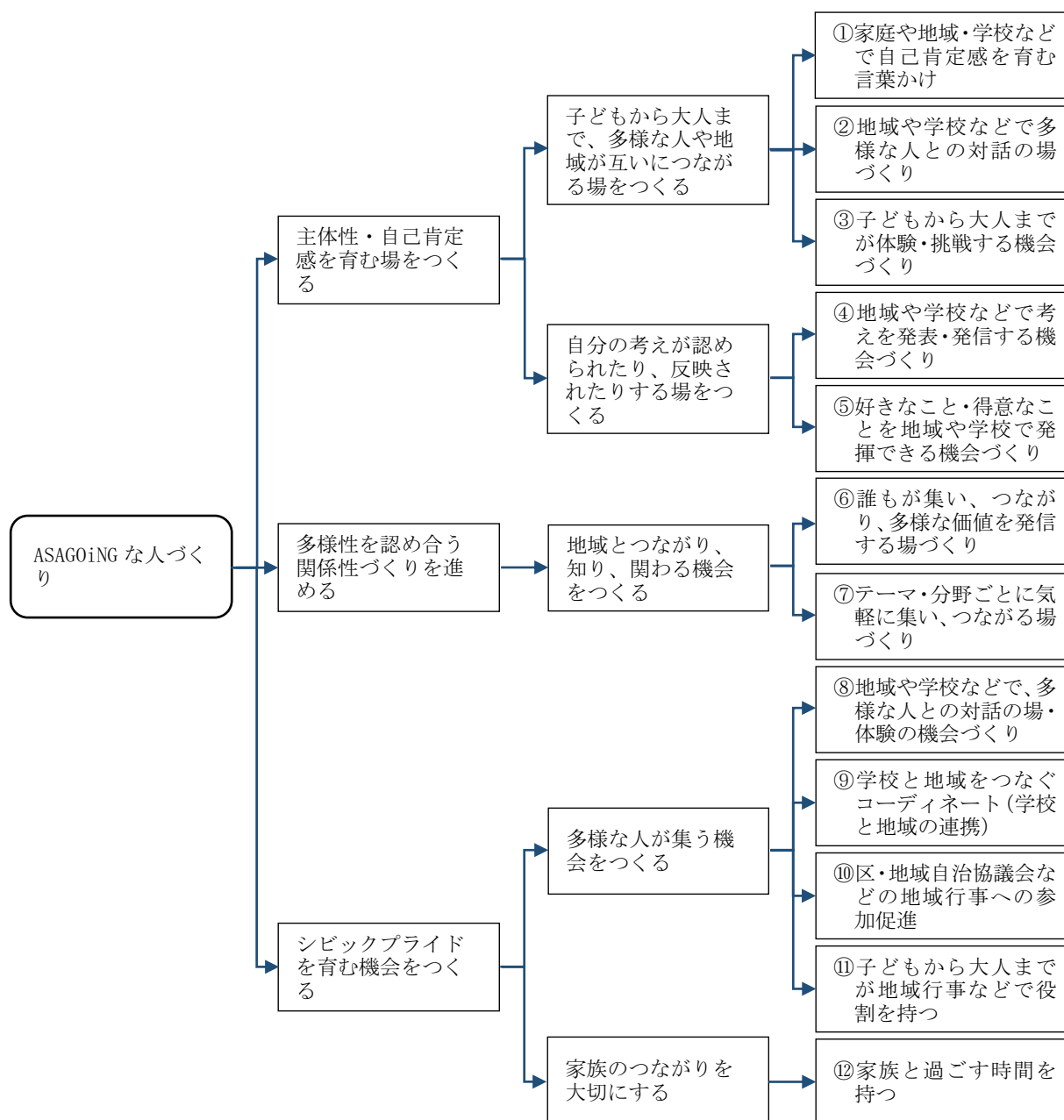
3 目標達成に向けたアクション

◆ASAGOiNG な人を育む

◎ 市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら

「まち」とつながる ASAGOiNG な人づくり

■目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
 地域・学校などでの多様な人と人、人と地域、人と仕事とがつながる場づくり ①～⑨ (対話する場、体験・挑戦する場)					
 地域活動への参加、地域活動での役割を持つ ⑩～⑪					
 家族と過ごす時間を持つ ⑫					

■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

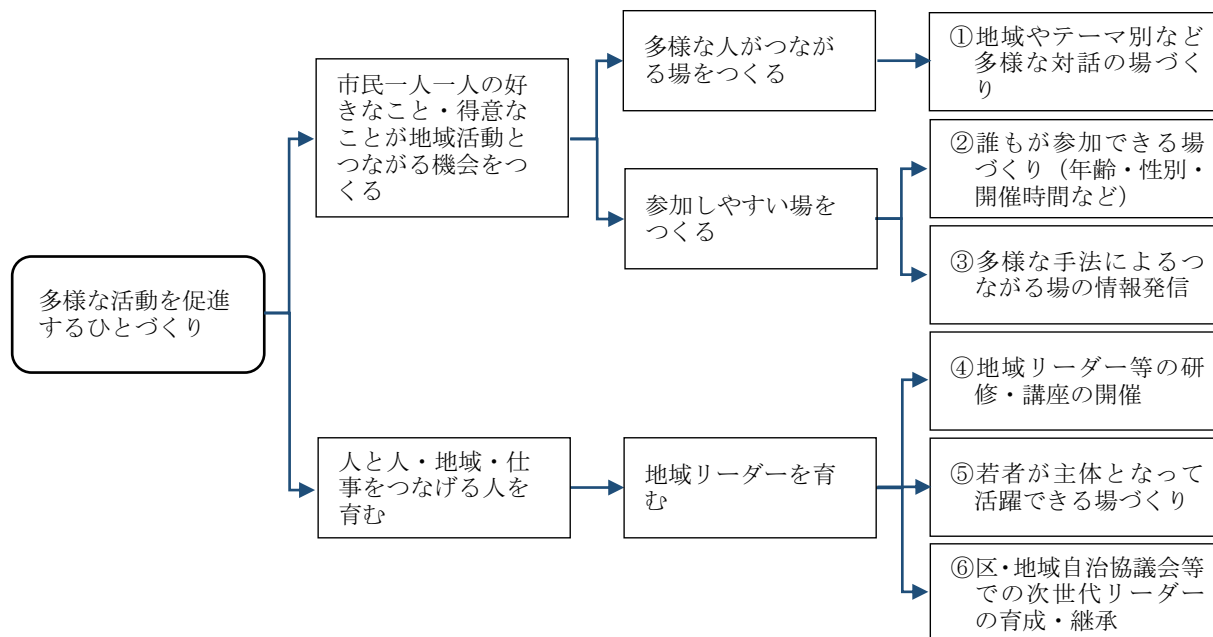
成果指標	現状値	目標値 (R7)
朝来市が好きだと思える生徒の割合 (中学3年生アンケート調査)	87.0% (R1 アンケート調査)	90.0%
住んでいる地域に愛着や誇りを持つ市民の割合 (市民アンケート調査)	62.8% (R1 アンケート調査)	65.8%

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
学校運営協議会を導入し、地域と連携した学校・地域の課題解決や活動した学校の割合	小学校 22.2% 中学校 0%	小学校 100.0% 中学校 100.0%
「地域行事に参加した」児童生徒の割合	小学校 65.7% 中学校 33.9%	小学校 75.0% 中学校 55.0%
区の地域活動に参加した市民の割合 (市民アンケート調査)	69.7% (R1 アンケート調査)	66.1%




◎ 市民一人一人が好きなこと・得意なことなどを地域社会で発揮し

多様な活動を促進するひとづくり

■ 目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
 多様な人とつながり、対話し、活動に参加するきっかけづくり ①～②					
 多様な人とつながる場の情報発信 ③					
 地域リーダーを育む ④～⑥ (講座の開催、若者の活躍の場づくり、組織内での育成等)					

■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

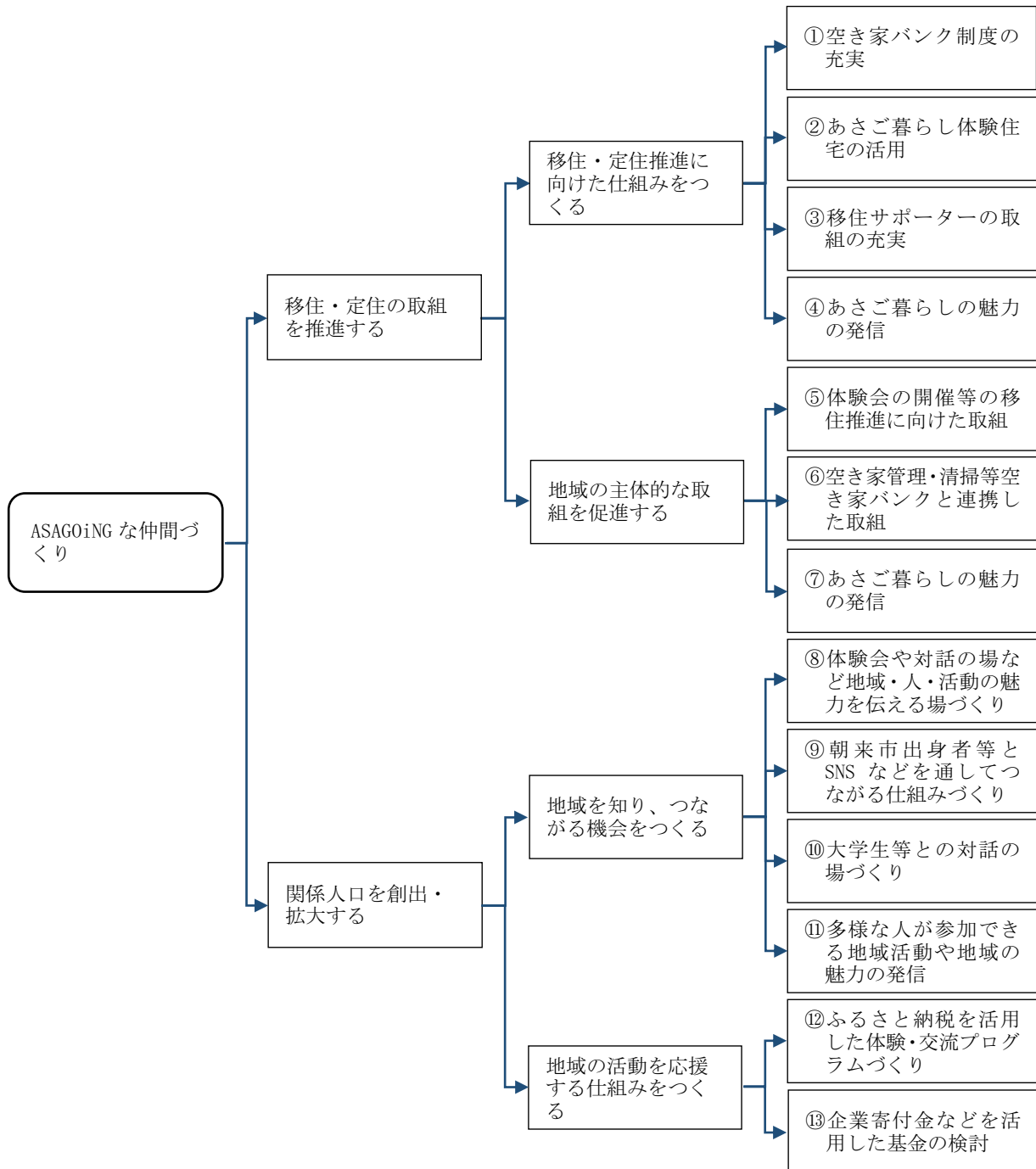
成果指標	現状値	目標値 (R7)
自らの知識や経験を地域社会活動に活かしている市民の割合 (市民アンケート調査)	28.7% (R1 アンケート調査)	27.8%

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
地域づくりの学びの場開催回数	5回/年 (R1 年度)	5回/年
地域自治協議会の参画人数	1,671人 (H30 年度)	1,870人

◆ASAGOiNG な仲間づくり

◎ 移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大による ASAGOiNG な仲間づくり

■目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
					⇐
			移住・定住推進に向けた仕組みづくり ①～③ (空き家バンク、体験住宅、移住サポーター等)		
			⇐		
			あさご暮らしの魅力を発信 ④		
⇐					
	移住・定住推進に向けた地域の主体的な取組の促進 ⑤～⑦				
					⇐
			関係人口創出・拡大に向けた地域とのつながりづくり ⑧～⑪ (対話の場・体験会などつながる場づくり、情報発信)		
					⇐
			地域の活動を応援する仕組みづくり ⑫～⑬ (ふるさと納税の活用、基金制度の検討)		

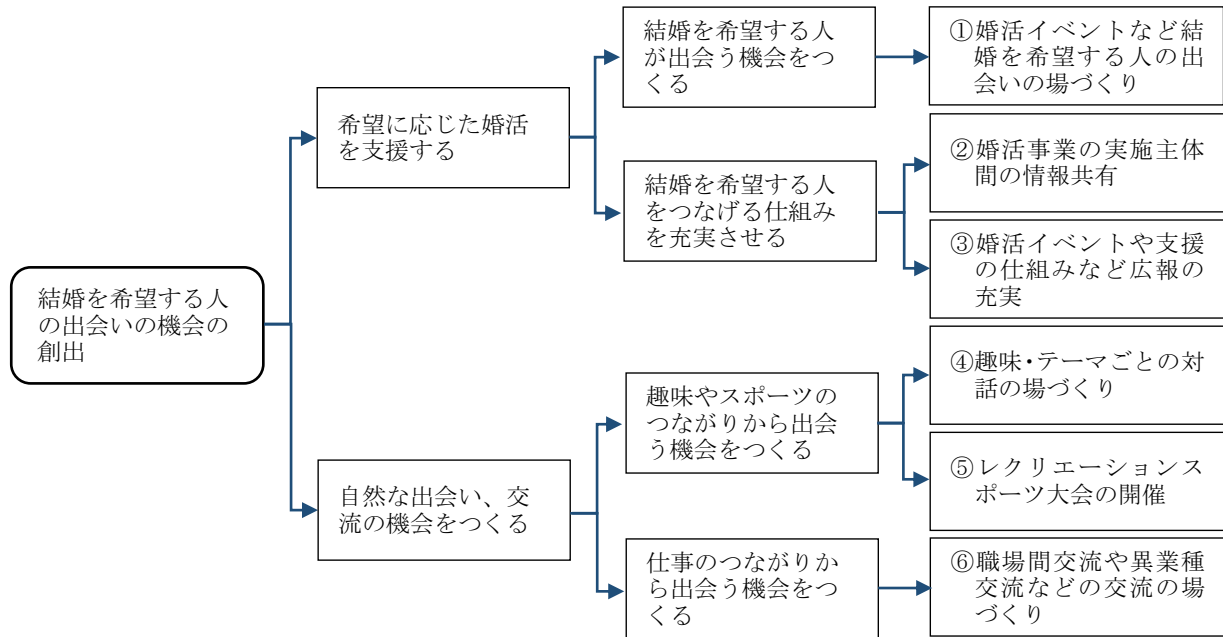
■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
朝来市に住み続けたいと思う市民の割合 (市民アンケート調査)	65.4% (R1 アンケート調査)	70.0%
朝来市の移住支援制度を利用して転入した人数	566人 (H26～H30年度)	1,360人 (累計) (H26～R7年度)


成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
移住相談件数 (過去5年間の平均値)	194件/年 (H26～H30年度平均)	200件/年 (R3～R7年度平均)
体験・交流プログラム件数	5件/年 (H30年度)	6件/年

◎ 結婚を希望する人の出会いの機会の創出

■ 目標達成に向けたアクション体系



■ ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
					 出会いの場づくり ①～⑥ (婚活イベント、自然な出会いの場づくり、情報発信)

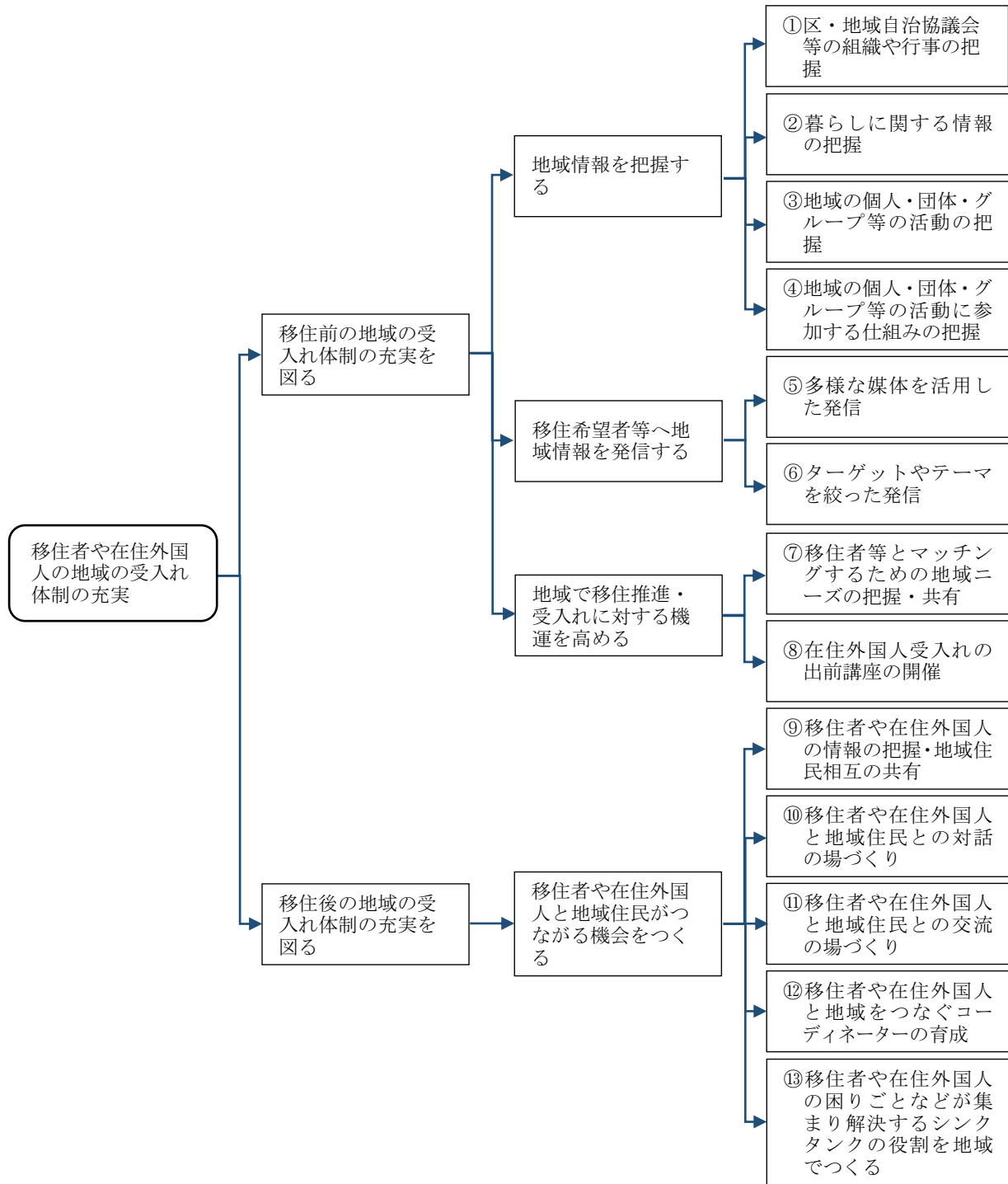
■ アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
婚姻数 (過去4年間の平均値) (兵庫県人口動態調査)	134組/年 (H28～R1年度平均)	135組/年 (R3～R6年度平均)

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
婚活イベントの開催回数	6回/年 (R1年度)	7回/年

◎ 移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実

■ 目標達成に向けたアクション体系



■ ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
					← 地域情報を把握する ①～④
		←			→ 地域情報を発信する ⑤～⑥
	←				→ 地域で移住推進・受入れの機運を高める ⑦～⑧
←					→ 移住者や在住外国人と地域住民とのつながりづくり ⑨～⑪ (情報の共有、対話の場、交流の場など)
					← 移住者や在住外国人と地域住民とのつながりづくり ⑫～⑬ (困りごとを解決につなげる地域シンクタンク、コーディネーターなど)

■ アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

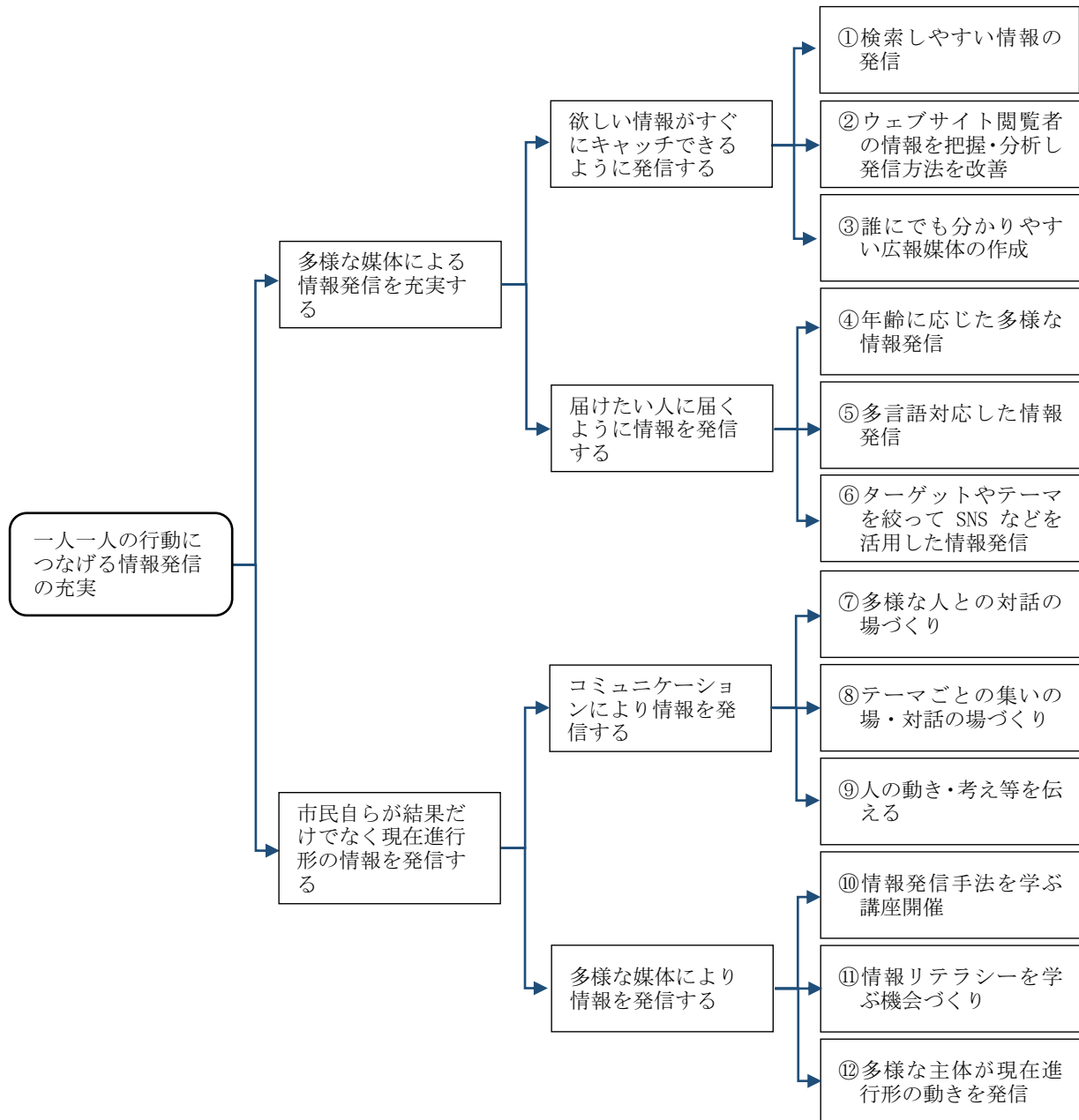
成果指標	現状値	目標値 (R7)
居住年数10年未満の市民で朝来市が住みやすいと思っている市民の割合 (市民アンケート調査)	62.8% (R1 アンケート調査)	70.0%

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
移住者交流会実施回数	2回/年 (H30年度)	3回/年
居住年数10年未満の市民で区の活動に参加した市民の割合 (市民アンケート調査)	50.0% (R1 アンケート調査)	56.0%

◆一人一人の行動につなげる情報発信

◎ 一人一人の行動につなげる情報発信の充実

■目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
					←
欲しい情報がキャッチできる情報発信 ①～③					
←					
届きたい人に届く情報発信 ④～⑥ (年齢に応じた多様な発信、多言語対応、ターゲット・テーマを絞った発信方法)					
←					
市民自らのコミュニケーションによる情報発信 ⑦～⑨ (人の動きが伝わる情報発信、多様な対話の場づくり)					
←					
市民自らの多様な媒体による情報発信 ⑩～⑫ (講座開催、情報リテラシーを学ぶ、地域活動の動きが伝わる情報発信)					

■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
家族や友だちに朝来市への移住を勧めたいと思う市民の割合 (市民アンケート調査)	37.9% (R1 アンケート調査)	46.5%
自らの知識や経験を地域社会活動に活かしている市民の割合 (市民アンケート調査) [再掲]	28.7% (R1 アンケート調査)	27.8%

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
市 SNS アカウントによる発信回数	325 回/年 (H30 年度)	580 回/年
情報発信に係る講座開催回数	0 回/年 (H30 年度)	2 回/年

基本目標 2 魅力ある多様な「しごと」づくり

1 基本的な方向

各年齢層に応じてキャリア教育の推進や市内の仕事の魅力ややりがいなどを伝えることにより、一人一人の希望に応じた多様な働き方や経済活動の実現につなげ、朝来市の経済活性化を推進します。

2 重要評価指標 (KPI)

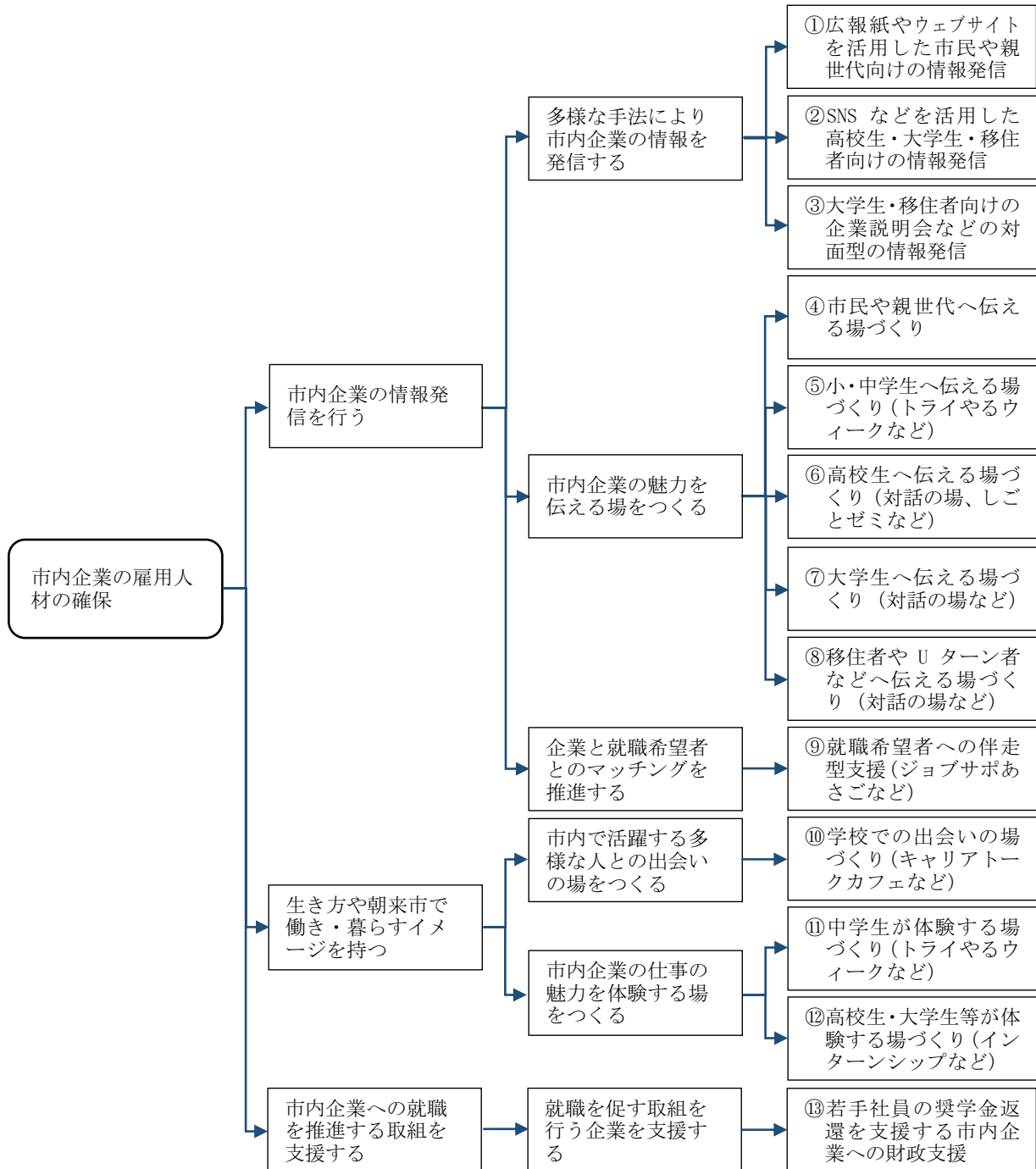
指標	現状値 (R1)	目標値 (R7)
市内事業所への新卒就業者数 (抽出: 就活サポートブック掲載企業のうち製造業、建設業、福祉事業 31 社)	56 人/年 (H29 年度)	60 人/年
朝来市内女性就業者比率 (国勢調査) (女性の生産年齢人口の就業者数/女性の生産年齢人口)	68.8% (H27 国勢調査)	70.8% (R7 国勢調査)
観光入込客数 (観光動態調査)	2,278 千人/年 (H30 年度)	2,387 千人/年
一人当たりの観光消費額 (市内宿泊あり)	14,117 円 (H29 年度)	16,728 円
一人当たりの観光消費額 (市内宿泊なし)	2,590 円 (H29 年度)	2,834 円
認定農業者数	29 人 (R1 年度)	47 人
朝来市全体の農業収入額	11.6 億円 (H30 年度)	13.0 億円
素材生産量 (兵庫県林業統計書) (市内山林での立木を伐採し丸太にして販売した生産量)	15,789 m ³ /年 (H29 県林業統計書)	20,000 m ³ /年

3 目標達成に向けたアクション

◆内発的な経済成長

◎ 市内企業で働く人材の確保

■目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
	 市内企業の情報発信・魅力を伝える場づくり ①～⑧ (情報発信、対話の場、トライやるウィーク、企業説明会など)				
			 就職希望者への伴走型支援 ⑨		
		 朝来市で働くイメージを持つ、企業の魅力を体験する ⑩～⑫ (対話の場、トライやるウィーク、インターンシップなど)			
				 若手社員への奨学金返還支援 ⑬	

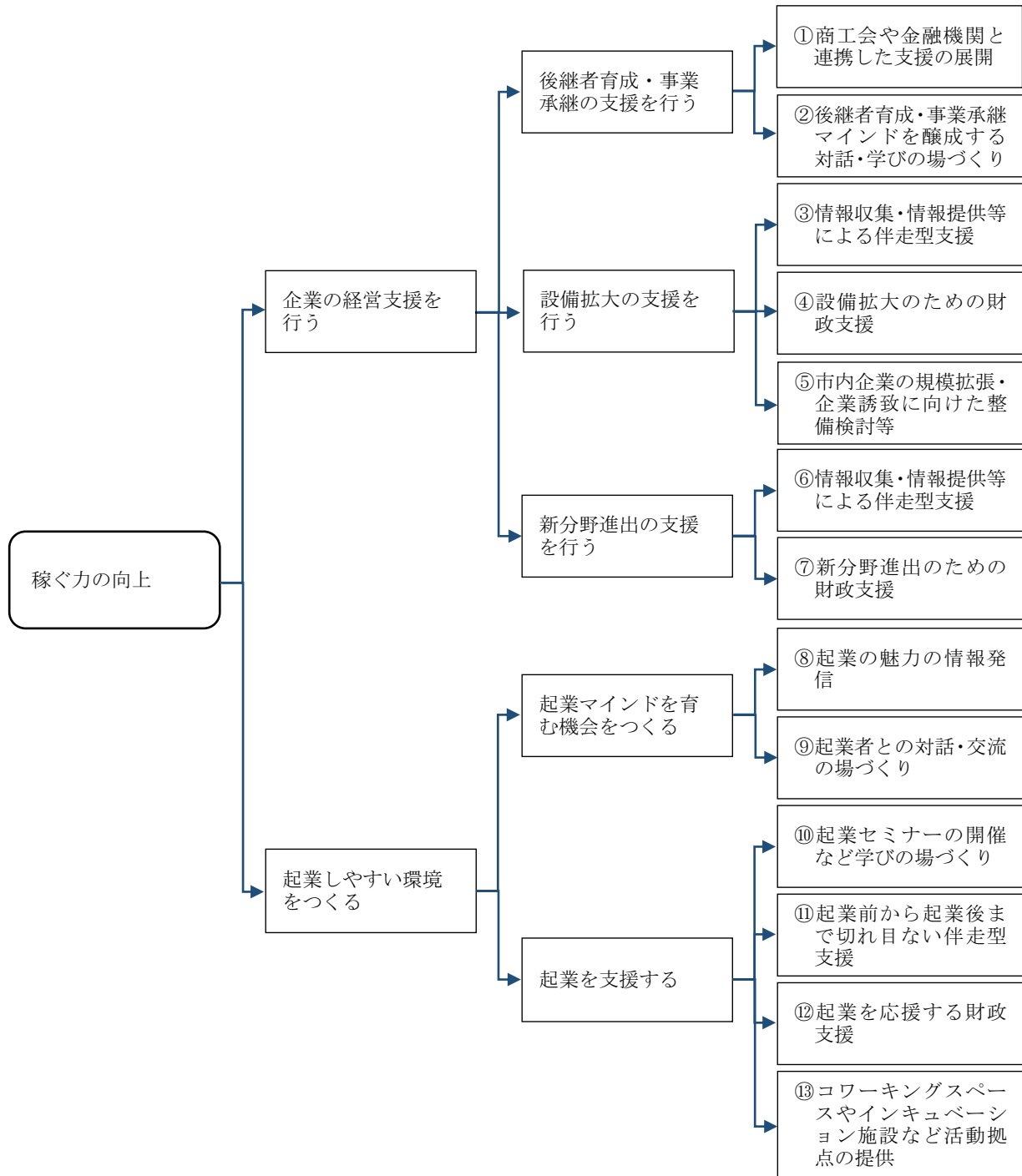
■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
市内事業所への新卒就業者数 (抽出: 就活サポートブック掲載企業のうち製造業、建設業、福祉事業 31 社)	56 人/年 (H29 年度)	60 人/年




成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
ジョブサポあさご求職相談件数	15 人/年 (H30 年度)	17 人/年
合同企業説明会参加者数	109 人/年 (H30 年度)	110 人/年
中学生・高校生・大学生等の仕事体験受入事業所数 (トライやるウィーク、しごとゼミ等)	126 事業所/年 (R1 年度)	130 事業所/年

◎ 市内企業等の稼ぐ力の向上

■ 目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
					 市内企業の経営支援 ①～⑦ (後継者育成に向けた取組、設備拡大・新分野進出支援など)
		 起業マインドを育む ⑧～⑨ (起業の魅力発信、起業者との対話の場づくりなど)			
					 起業に向けた支援 ⑩～⑬ (セミナー開催、伴走型支援、活動拠点の提供など)

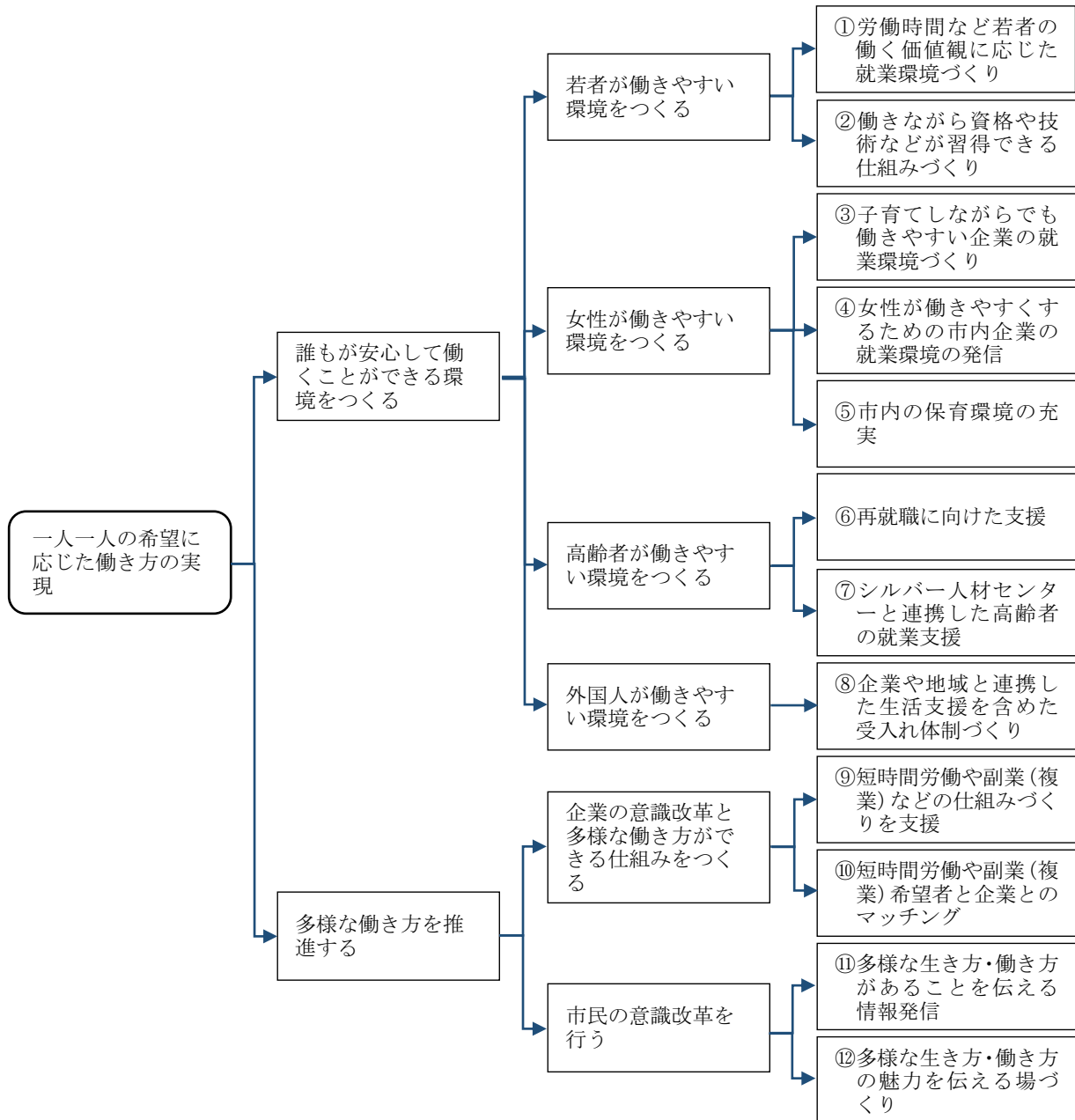
■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
創業件数	11 件/年 (H30 年度)	72 件 (累計) (R2～R7 年度)

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
あさご元気産業創生センター相談件数	51 件/年 (H30 年度)	60 件/年
起業セミナー (創業塾) 参加者数	28 人/年 (R1 年度)	20 人/年

◎ 誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現

■ 目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
					←
					誰もが働きやすい環境づくり ①～⑧ (若者・女性・高齢者・外国人などが働きやすい環境づくり)
					←
					多様な働き方を推進するための仕組みづくり ⑨～⑩ (仕組みづくり、希望者とのマッチング支援)
					←
					多様な働き方を発信する ⑪～⑫

■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

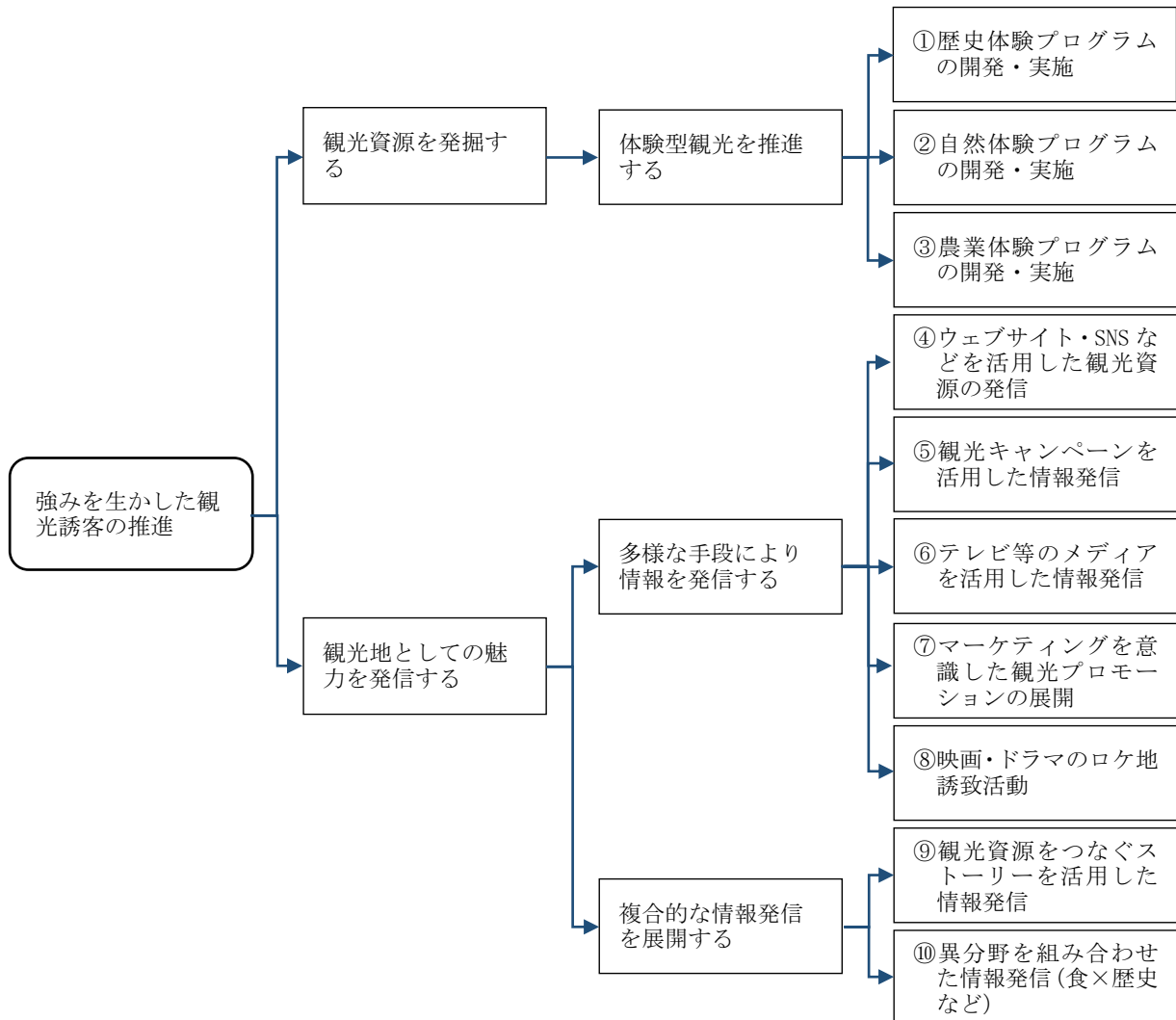
成果指標	現状値	目標値 (R7)
朝来市内女性就業者比率 (国勢調査) (女性の生産年齢人口の就業者数/女性の生産年齢人口)	68.8% (H27 国勢調査)	70.8% (R7 国勢調査)

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
多様な働き方を推進するための事業所向けセミナー開催回数	1回/年 (R1 年度)	1回/年
働き方改革や多様な働き方を推進するセミナー参加事業所数	10 事業所/年 (R1 年度)	12 事業所/年
放課後児童クラブ・放課後子ども教室設置数	11 施設 (R1 年度)	12 施設
病児保育設置箇所数 (病児対応型・病後児対応型)	2 施設 (R1 年度)	3 施設




◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎ 朝来市の強みを生かした観光誘客の推進

■目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
	 体験型観光プログラムの開発・実施 ①～③ (歴史、自然、農業などの資源を生かしたプログラムづくり)				
				 多様な手段による観光資源の発信 ④～⑧ (ウェブサイト・SNS、キャンペーン、メディア活用、プロモーション活動、ロケ地誘致など)	
			 複合的な観光資源の情報発信 ⑨～⑩ (ストーリー化、異分野との組み合わせなど)		

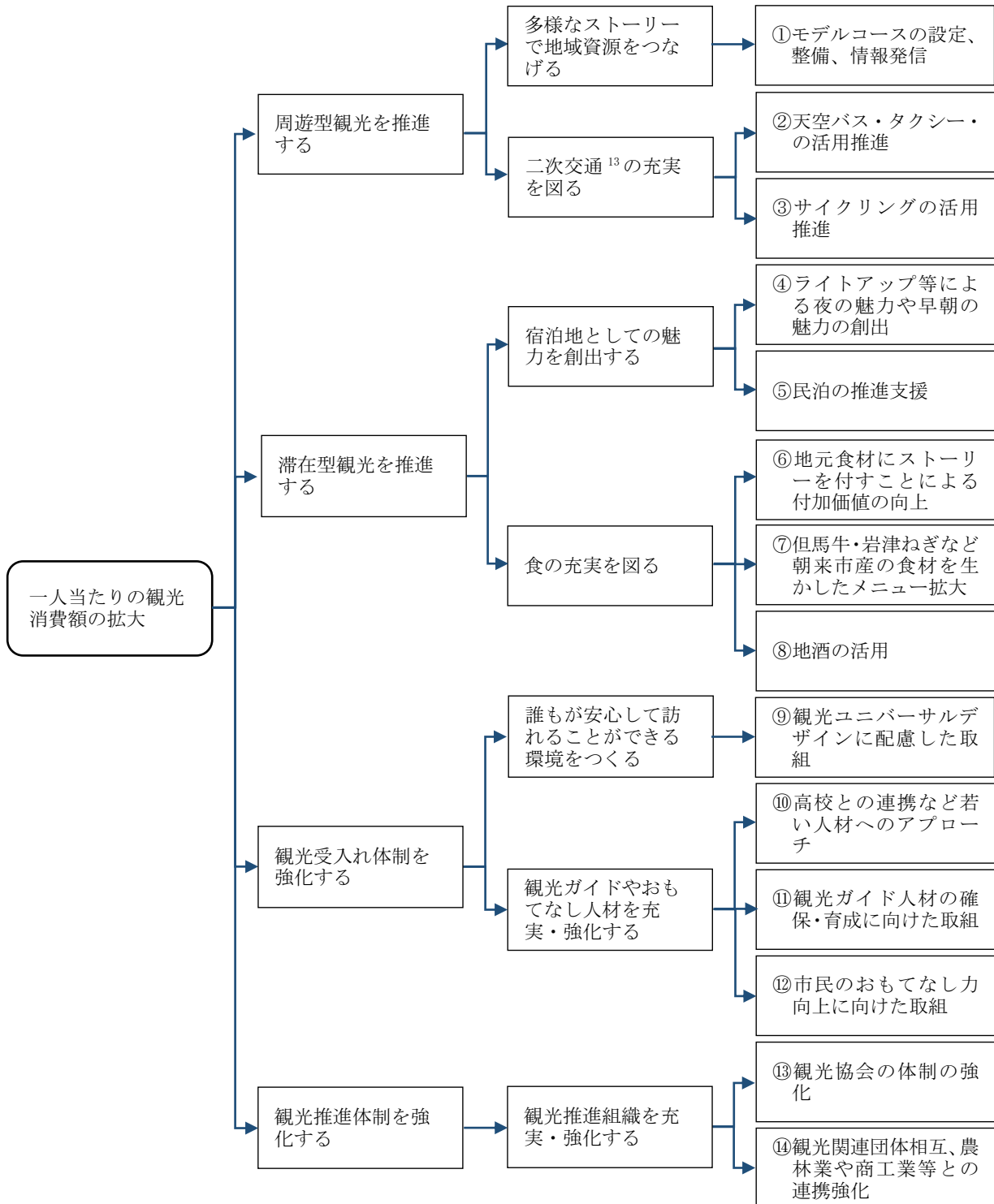
■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
観光入込客数 (観光動態調査)	2,278 千人/年 (H30 年度)	2,387 千人/年

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
体験型観光プログラム数	30 件 (R1 年度)	44 件
朝来市観光ポータルサイト閲覧ユーザー数	176,665 ユーザー/年 (H30 年度)	261,000 ユーザー/年
各種メディアでの情報発信回数	229 回/年 (H30 年度)	290 回/年








◎ 観光客一人当たりの観光消費額の拡大

■ 目標達成に向けたアクション体系



¹³ 二次交通：拠点となる鉄道の駅やバス停から目的地までの交通のこと。

■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
	 <p>多様なストーリーで地域資源をつなげる ① (モデルコースの設定など)</p>				
					 <p>二次交通の充実 ②～③ (バス・タクシー・自転車の活用検討など)</p>
				 <p>宿泊地としての魅力創出 ④～⑤ (夜や朝の魅力創出、民泊の推進支援など)</p>	
	 <p>食の充実 ⑥～⑧ (地元食材の付加価値化、地酒活用など)</p>				
					 <p>誰もが安心して訪れることができる環境づくり ⑨</p>
	 <p>観光ガイドやおもてなし人材の充実・強化 ⑩～⑫ (高校との連携、観光ガイドの人材確保、市民のおもてなし力強化など)</p>				
					 <p>観光推進組織の充実・強化 ⑬～⑭</p>

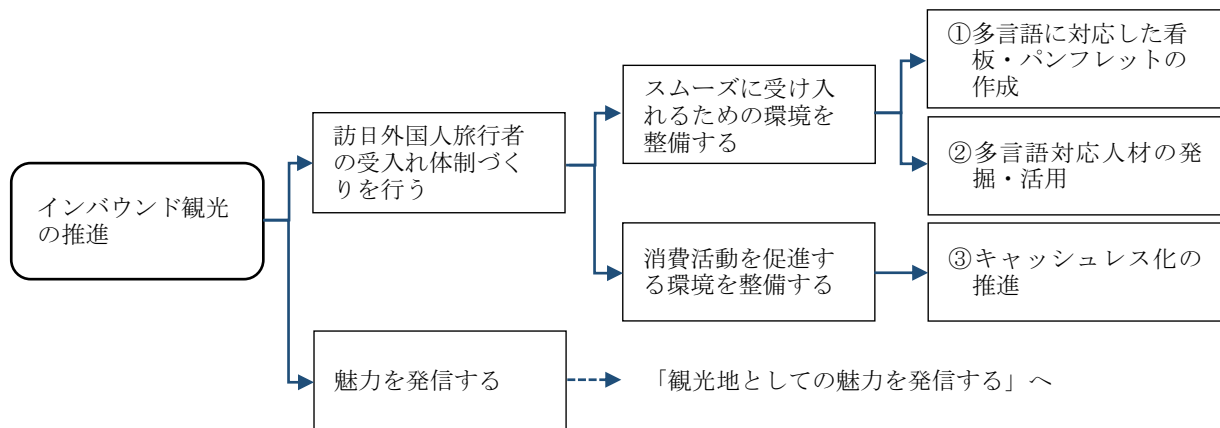
■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
一人当たりの観光消費額 (市内宿泊あり)	14,117 円 (H29 年度)	16,728 円
一人当たりの観光消費額 (市内宿泊なし)	2,590 円 (H29 年度)	2,834 円

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
延べ宿泊者数	112,770 人/年 (H30 年度)	135,500 人/年
観光ガイド登録者数	53 人 (H30 年度)	60 人

◎ インバウンド観光の推進

■ 目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
					←
訪日外国人旅行者をスムーズに受け入れるための環境整備 ①～② (看板・パンフレットの多言語化、多言語対応人材の発掘・活用など)					
					←
訪日外国人旅行者の消費活動を促進する環境整備 ③ (キャッシュレス化の推進など)					

■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

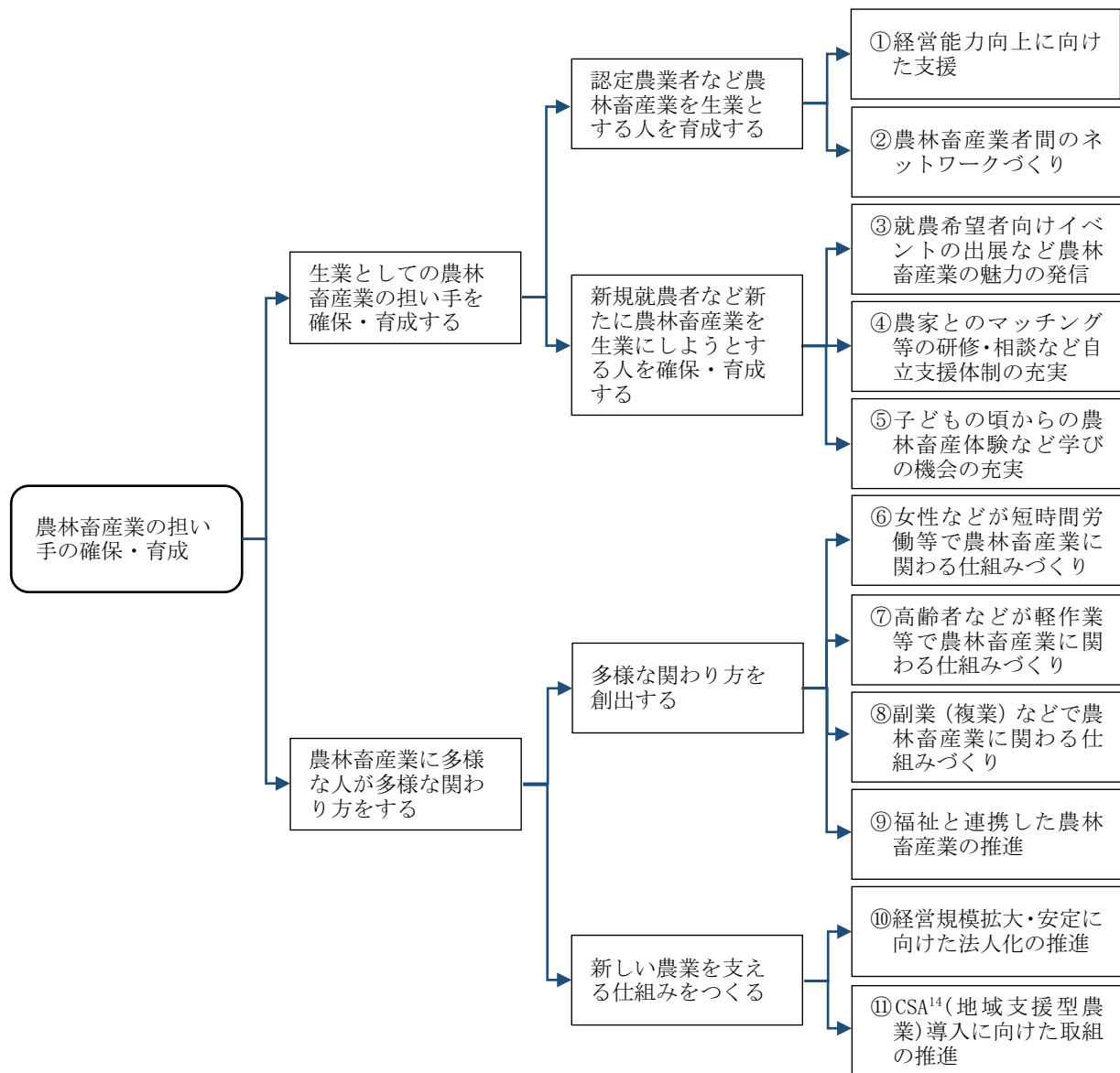
成果指標	現状値	目標値 (R7)
インバウンド来訪客数	10 千人/年 (H30 年度)	25 千人/年

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
朝来市多言語サイト「Visit Asago」の閲覧ユーザー数	2,651 ユーザー (R1 年 11 月)	10,000 ユーザー

◆儲ける農林畜産業への転換

◎ 農林畜産業の担い手の確保・育成

■目標達成に向けたアクション体系



¹⁴ CSA：地域支援型農業と呼ばれ、同じ地域に住む農家と消費者が、共に農業の恵みとリスクを分かち合うことを目指して生まれた新しい形の産直システムのこと。

■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
					認定農業者等への支援 ①～②
					新規就農者等の確保・育成 ③～④ (イベント出展等確保に向けた取組、研修・相談など)
					農林畜産業への関心を高める取組 ⑤ (農林畜産業体験、キャリアトークカフェなど)
					多様な関わり方を創出 ⑥～⑨
					新しい農業を支える仕組みづくり ⑩～⑪

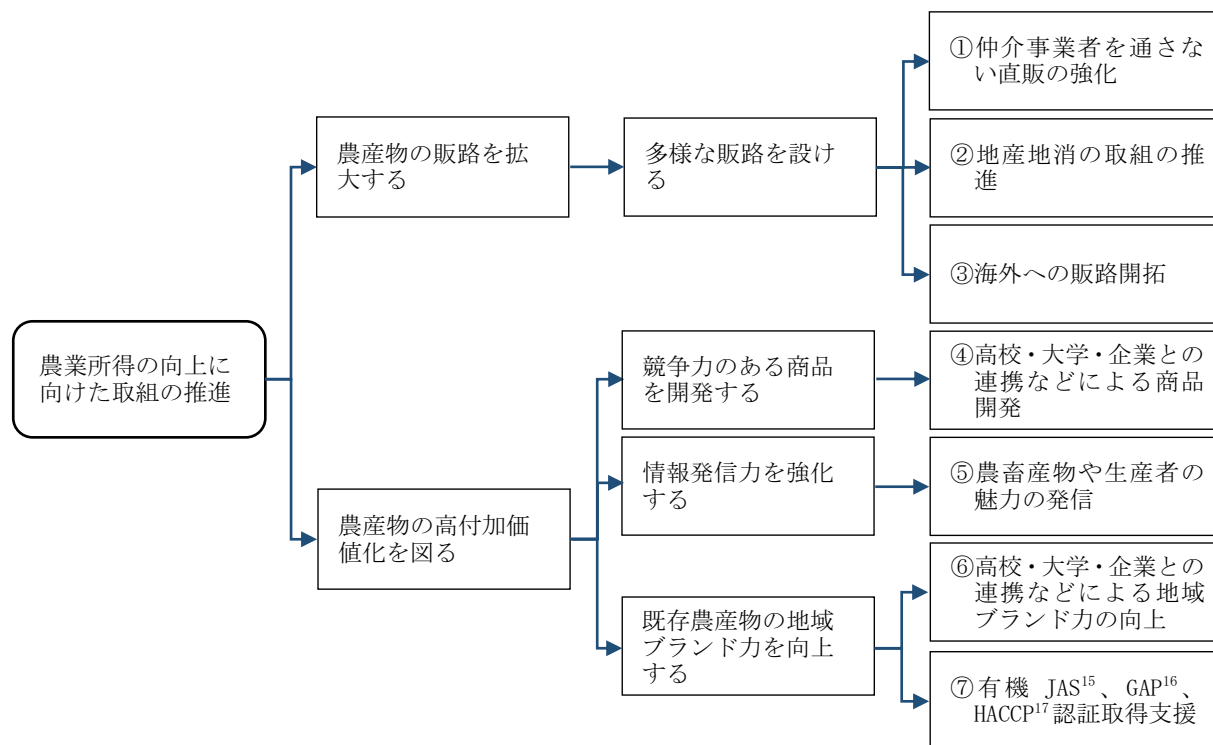
■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
認定農業者数	29人 (R1年度)	47人
市研修制度を活用した新規就農者数	18人 (H28～R1年度)	50人(累計) (H28～R7年度)
新たに農業に携わる女性の数	—	120人(累計) (R2～R7年度)

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
就農希望者向けイベント出展回数	8回/年 (R1年度)	13回/年
小・中学校での農林畜産業体験回数(1校あたり年間実施回数)	0.92回/校・年 (R1年度)	2回/校・年
農業経営セミナー開催数	0回/年 (R1年度)	3回/年

◎ 農業所得の向上に向けた取組の推進

■ 目標達成に向けたアクション体系



¹⁵ 有機 JAS : JAS 法に基づき、「有機 JAS 規格」に適合した生産が行われていることを第三者機関が検査し、認証された事業者に「有機 JAS マーク」の使用を認める制度のこと。

¹⁶ GAP : 農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のこと。

¹⁷ HACCP : 食品等事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因（ハザード）を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法のこと。

■ ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
				直販の強化、海外への販路開拓 ① ③ (直売所から直販へつなぐ取組、大学連携などによる海外販路開拓の推進など)	
				地産地消の取組の推進 ②	
			商品開発、地域ブランド力向上の取組 ④ ⑥ (高校・大学連携などによる取組の推進)		
			農産物・生産者情報の発信 ⑤		
					有機 JAS、GAP、HACCP 認証取得支援 ⑦

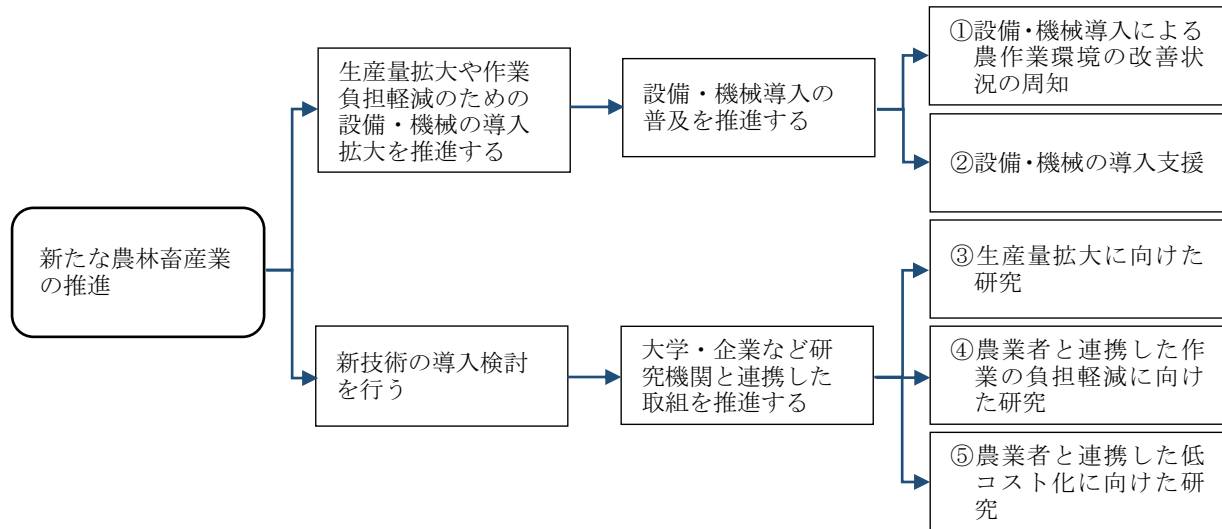
■ アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
朝来市全体の農業収入額	11.6 億円 (H30 年度)	13.0 億円

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
道の駅農産物販売額	327,839 千円 (H30 年度)	373,736 千円
学校給食への地元食材供給率	36.0% (H30 年度)	50.0%
有機 JAS、GAP、HACCP 取得農業者数	2 人 (H30 年度)	17 人

◎ 生産量拡大や作業負担軽減・低コスト化に向けた新たな農林畜産業の推進

■ 目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

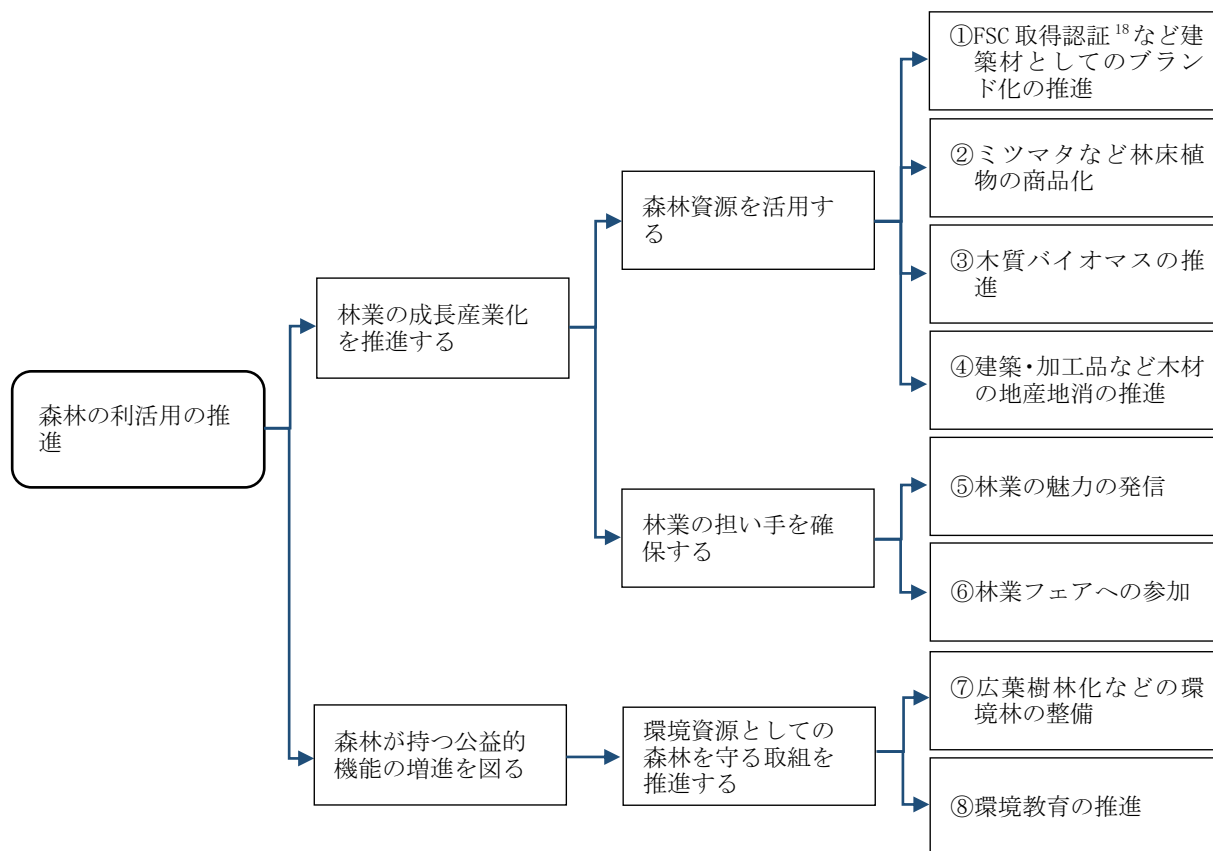
就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
					← 設備・機械導入の推進 ①～② →
					← 大学・企業等と連携した新技術導入の検討 ③～⑤ (生産量拡大、負担軽減・低コスト化等) →

■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

活動指標	現状値	目標値 (R7)
大規模ビニールハウス設置数	40 棟 (H30 年度)	60 棟
大学・企業等研究機関と連携した新技術導入研究 件数	0 件/年 (R1 年度)	1 件/年






◎ 森林の利活用の推進

■ 目標達成に向けたアクション体系



¹⁸ FSC 取得認証：国際的な森林認証制度を行なう第三者機関（森林管理協議会）が、森林の管理や伐採が環境や地域社会に配慮して行なわれているかどうかを、信頼できるシステムで評価し、それが行なわれている森林を認証する制度のこと。

■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
				 森林資源の活用 ①～④ (建築材など木材活用、木質バイオマスの推進等)	
	 林業の魅力の発信 ⑤				
				 林業の担い手の確保 ⑥	
	 環境林の整備 ⑦				
	 環境教育の推進 ⑧				

■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
素材生産量 (兵庫県林業統計書) (市内山林での立木を伐採し丸太にして販売した生産量)	15,789 m ³ /年 (H29 県林業統計書)	20,000 m ³ /年

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
林業労働者数 (兵庫県林業統計書)	55 人 (H29 県林業統計書)	65 人
私有林整備面積	40ha/年 (R1 年度)	120ha/年
未利用材搬出量	5,560t/年 (H30 年度)	8,400t/年

基本目標 3 誰もが希望を持ち、

心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

1 基本的な方向

地域コミュニティの中で誰もが居場所と役割を持ち、心豊かに安心して暮らせるまちづくりを、多様な主体による対話の場を持ちながら推進します。

2 重要評価指標（KPI）

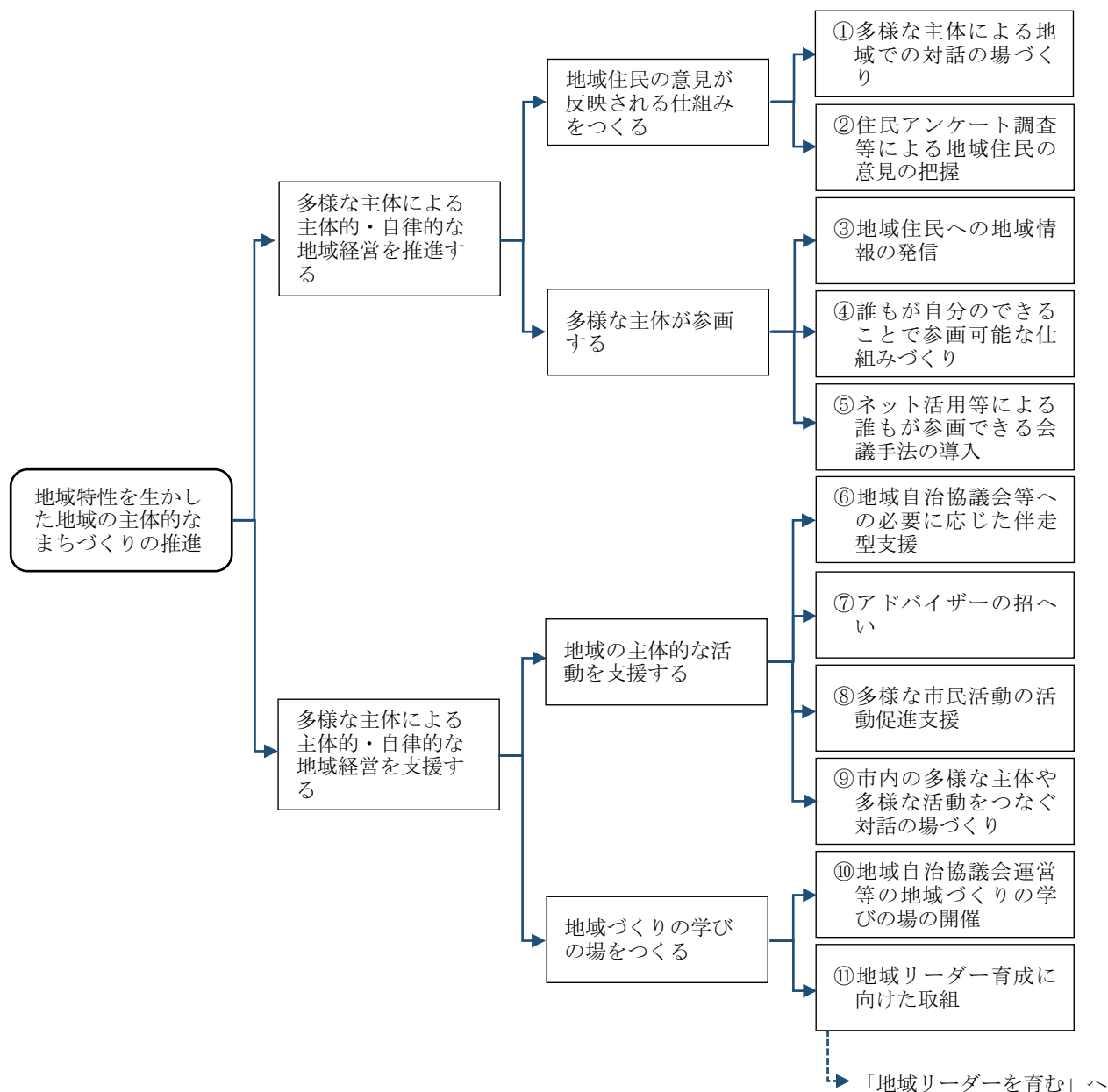
指標	現状値 (R1)	目標値 (R7)
地域自治協議会の参画人数	1,671人 (H30年度)	1,870人
自らの知識や経験を地域社会活動に活かしている市民の割合（市民アンケート調査）[再掲]	28.7% (R1アンケート調査)	27.8%
区の活動に参加した市民の割合（市民アンケート調査）	69.7% (R1アンケート調査)	66.1%
在住外国人と地域とのつながりづくりが進められていると感じる市民の割合（市民アンケート調査）	19.1% (R4アンケート調査)	21.1%
国際交流において多様な文化に触れる機会があると感じる市民の割合（市民アンケート調査）	11.6% (R4アンケート調査)	13.6%
65歳以上の要支援・要介護認定率	21.8% (H31年3月)	20.0%

3 目標達成に向けたアクション

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

◎ 地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進

■目標達成に向けたアクション体系

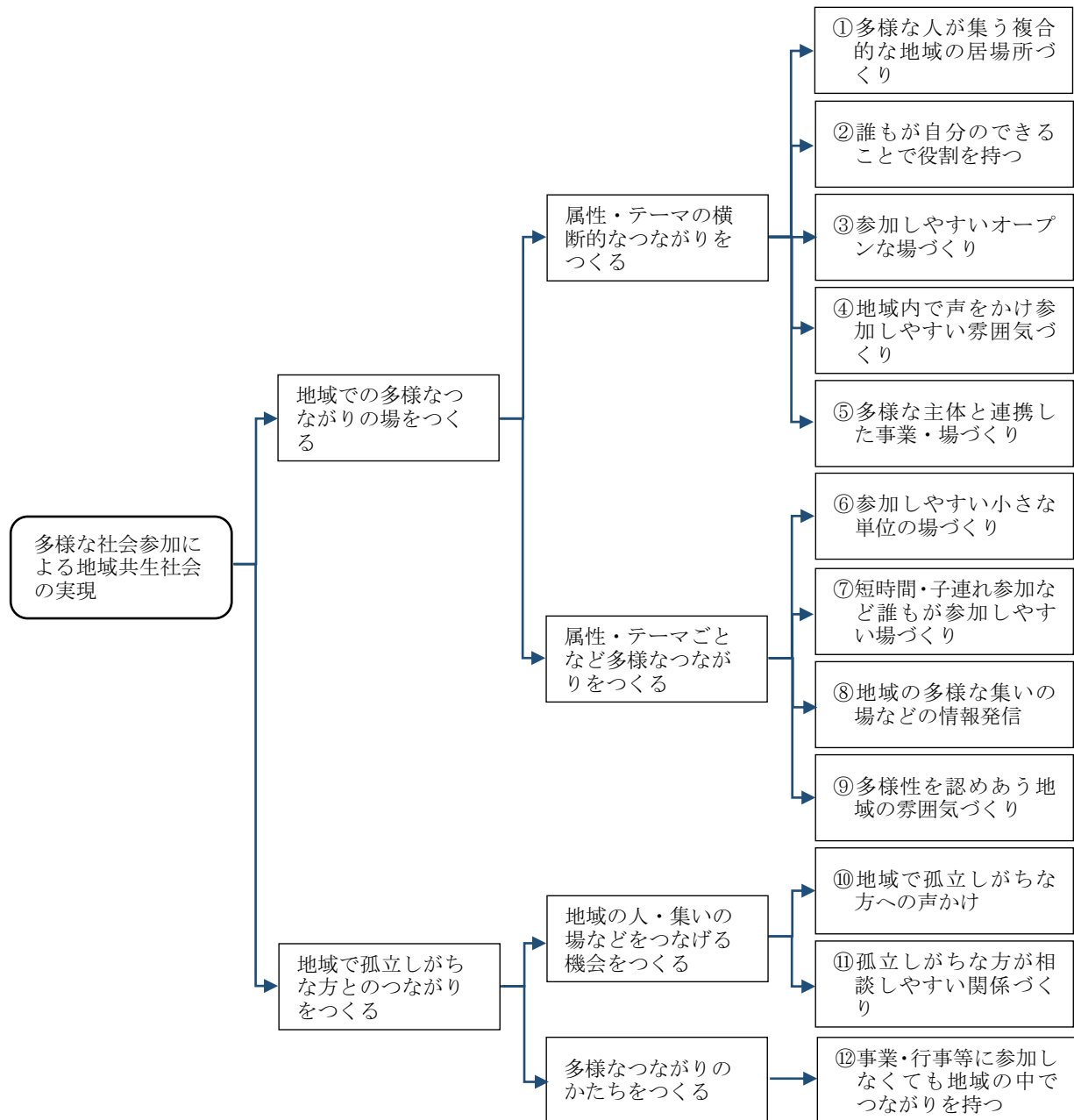


◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり



◎ 一人一人が地域とつながりを持ち安心して

自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現

■ 目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
 <p>地域での多様なつながりづくり ①～⑨ (属性・テーマの横断的なつながり、属性・テーマごとの多様なつながり)</p>					
 <p>地域で孤立しがちな方とのつながりづくり ⑩～⑫ (地域での声かけ、相談しやすい関係づくりなど)</p>					

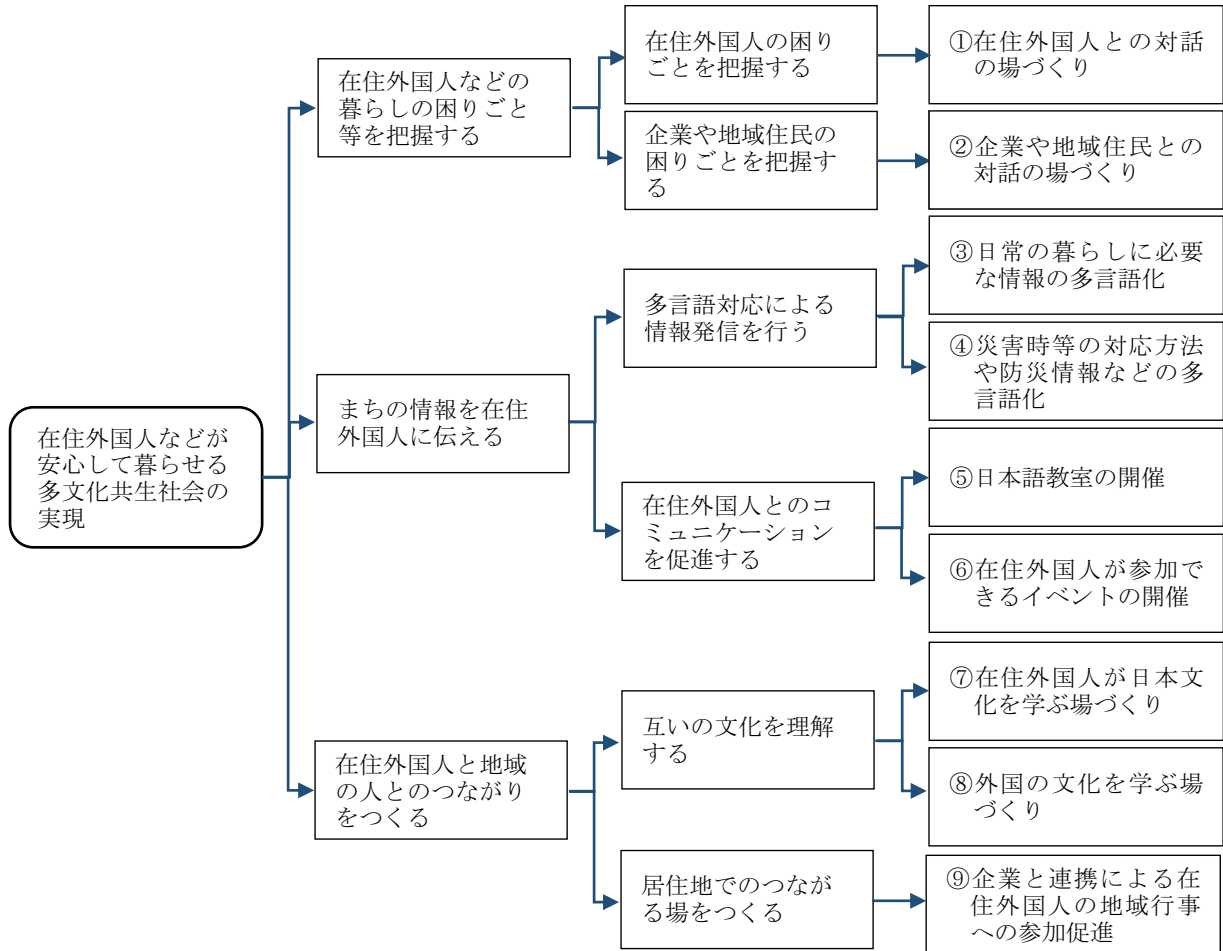
■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
区の活動に参加した市民の割合 (市民アンケート調査) [再掲]	69.7% (R1 アンケート調査)	66.1%

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
あさごいきいき百歳体操実施グループ数	64 グループ (H31年3月)	83 グループ
地域ミニデイ事業登録グループ数	66 グループ (H31年3月)	87 グループ
ひきこもり等居場所づくり事業数	0 事業 (R1 年度)	1 事業

◎ 在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現

■ 目標達成に向けたアクション体系



■ ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
←————— 在住外国人などの暮らしの困りごと等の実態把握 ①～② —————→					
←————— 多言語対応の情報発信 ③～④ —————→					
←————— 在住外国人とのつながりづくり・コミュニケーションの促進 ⑤～⑧ (日本語教室の開催、交流の場づくり、互いの文化を学ぶ) —————→					
←————— 居住地でのつながりづくり ⑨ (企業と連携したつながりの場) —————→					

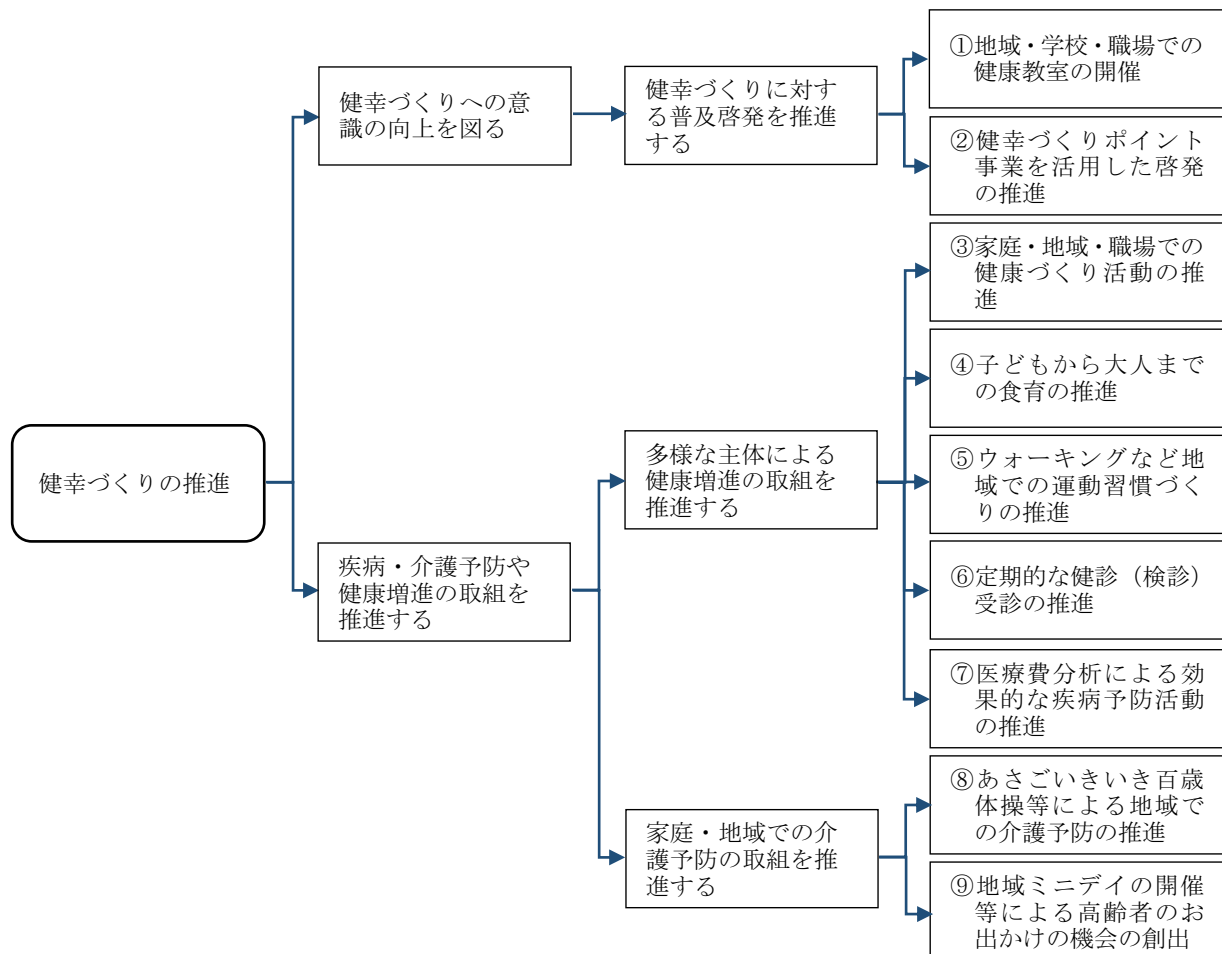
■ アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
在住外国人と地域とのつながりづくりが進められていると感じる市民の割合 (市民アンケート調査)	19.1% (R4 アンケート調査)	21.1%
国際交流において多様な文化に触れる機会があると感じる市民の割合 (市民アンケート調査)	11.6% (R4 アンケート調査)	13.6%




成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
日本語教室参加者数	32人 (R1年12月)	42人
日本語教室ボランティアスタッフ数	22人 (R1年12月)	28人

◎ 誰もが生きがいを感じ健やかに幸せに暮らすことができる健幸づくりの推進

■ 目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
 健幸づくりに対する普及啓発 ①～② (健康教室の開催、健幸づくりポイント事業など)					
 多様な主体による健康増進の取組の推進 ③～⑦ (食育・運動習慣づくりなどの健康増進活動、健診(検診)の受診など)					
 家庭・地域での介護予防の取組の推進 ⑧～⑨ (百歳体操の推進、地域ミニデイの開催)					

■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

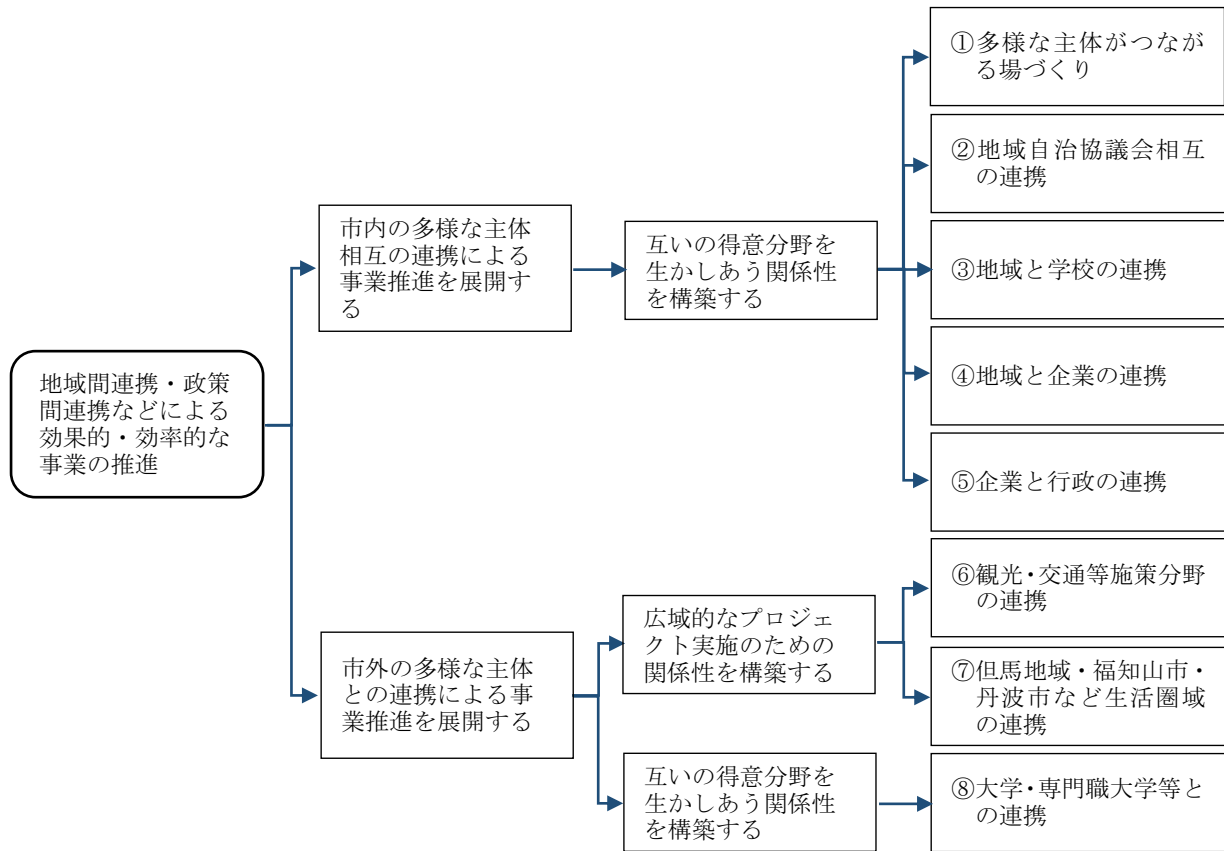
成果指標	現状値	目標値 (R7)
65歳以上の要支援・要介護認定率	21.8% (H31年3月)	20.0%

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
健幸づくりポイント事業寄附及び交換申請者数	788人/年 (R1年度)	1,090人/年
小学6年生の肥満傾向の出現率(朝来市養護教諭研究会)	男7.7%、女9.4% (R1年度)	男5.0%、女5.0%
あさごいきいき百歳体操実施グループ数[再掲]	64グループ (H31年3月)	83グループ
地域ミニデイ事業登録グループ数[再掲]	66グループ (H31年3月)	87グループ



◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎ 地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進

■目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

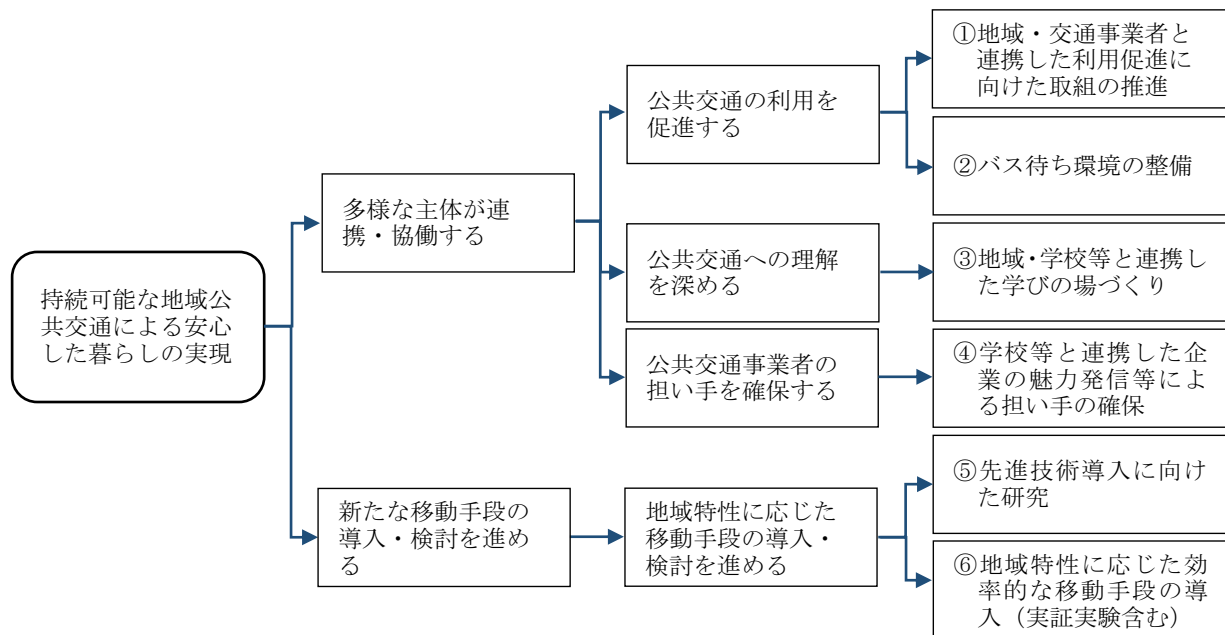
就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
 <p>市内の多様な主体との連携 ①～⑤ (多様な主体がつながる場づくり、地域・学校・企業・行政等相互のつながり)</p>					
 <p>広域的プロジェクト実施のための連携 ⑥～⑦ (施策分野ごとの取組、生活圏域での連携)</p>					
 <p>大学・専門職大学等との連携 ⑧</p>					

■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)





活動指標	現状値	目標値 (R7)
丹波市・福知山市の生活圏域での連携分野数	4 分野 (R1 年度)	6 分野
連携協定大学数	3 校 (R1 年度)	5 校

◎ 持続可能な地域公共交通による安心した暮らしの実現

■ 目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
 利用促進に向けた取組 ①～② (地域等と連携した利用促進に向けた取組、バス待ち環境づくり等)					
 地域公共交通の学びの場づくり ③ (地域・学校等と連携した学びの場づくり)					
			 企業情報の魅力の発信 ④		
			 新たな移動手段導入の検討 ⑤～⑥		

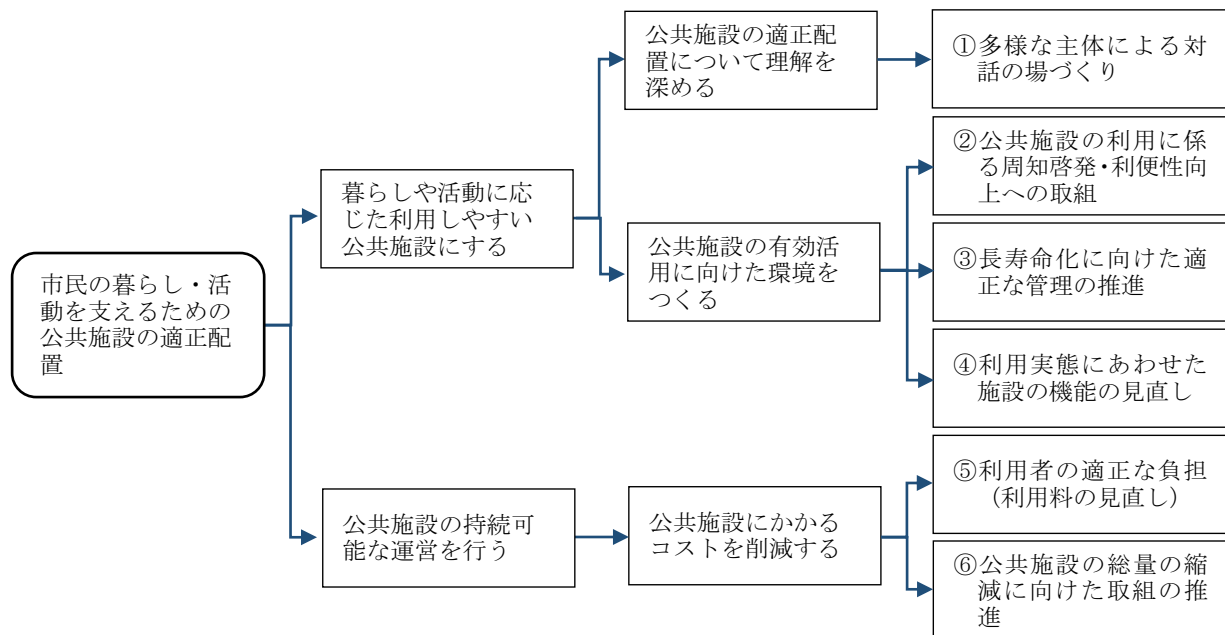
■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
公共交通利用者数 (路線バス・コミュニティバス年間利用者数)	234,246 人 (H30 年度)	216,000 人

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
新たな利用促進事業実施件数	0 事業 (R1 年度)	6 事業 (累計) (R2～R7 年度)
新たな移動手段の導入数 (実証実験含む)	1 事業 (R1 年度)	2 事業 (累計) (R2～R7 年度)

◎ 市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置

■ 目標達成に向けたアクション体系



■ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
	←—————→ 公共施設の理解を深める対話等 ①				
	←—————→ 公共施設の活用に向けた周知・利便性向上に向けた取組 ②				
	←————→ 公共施設マネジメント ③～⑥ (有効活用に向けた環境整備、低コスト化の取組)				

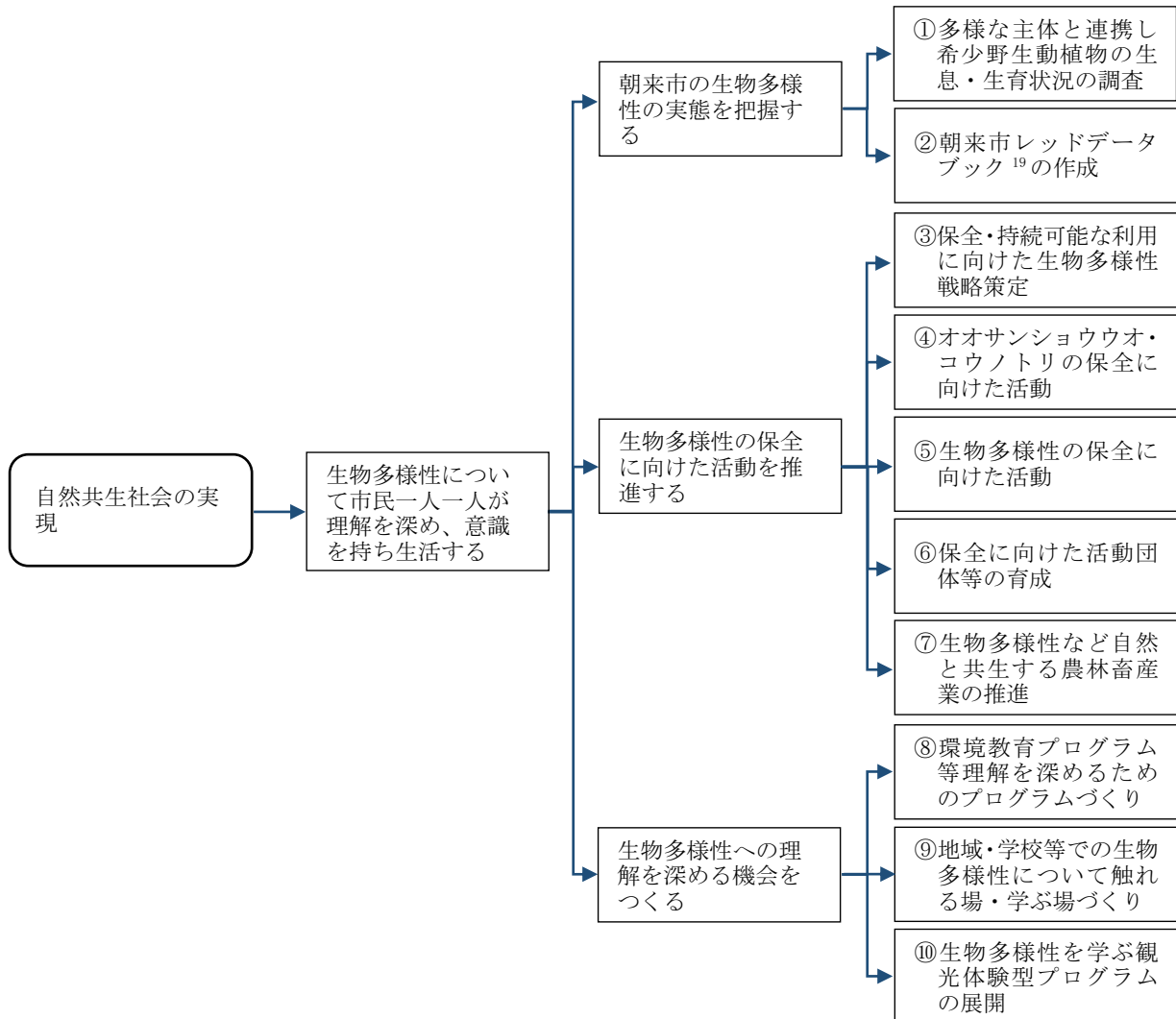
■アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
公共施設の延べ床面積	240,258 m ² (H28年度)	216,233 m ²

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
公共施設個別施設計画策定率 (対総床面積)	1.3% (H28年度)	100.0%
公共施設の有効活用に向けた対話・周知活動数	1件/年 (H30年度)	2件/年





◎ 生物多様性の保全と持続可能な利用による自然共生社会の実現

■ 目標達成に向けたアクション体系



¹⁹ レッドデータブック：絶滅のおそれのある野生生物に関する保全状況や分布、生態、影響を与えている要因等の情報を記載した図書のこと。

■ ライフステージに応じたアクション

就学前	小学生	中学生	高校生	大学生等	大人
 多様な主体と連携した希少野生動植物の生息・生育状況の調査 ①～②					
 生物多様性戦略の策定 ③					
 生物多様性の保全に向けた活動の推進 ④～⑦ (保全に向けた活動、活動団体等の育成、自然と共生する農林畜産業の推進)					
 生物多様性への理解を深める学びの場 ⑧～⑩ (自然と触れる機会づくり、学びの場、観光と連携した体験プログラム)					

■ アクションプランごとの事業評価指標 (KPI)

成果指標	現状値	目標値 (R7)
環境にやさしいまちづくりが進められていると感じている市民の割合 (市民アンケート調査)	13.1% (R1 アンケート調査)	14.5%

成果達成に向けた活動指標	現状値	目標値 (R7)
地域・学校等での環境学習の開催回数	42 回/年 (H30 年度)	53 回/年
コウノトリ 育む農法等環境保全型農業耕作面積	80ha (H30 年度)	161ha
オオサンショウウオを学ぶ出前講座回数	3 回/年 (R1 年度)	5 回/年